

社会福祉法人万葉の里 令和5年度 事業報告

I. 令和5年度 事業総括	1
II. 障害者センター事業部門	2
障害者センター事業部門全体総括	
1. 地域活動支援センターつばさ	4
2. 生活介護事業 太陽	13
3. 自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき	16
4. 就労継続支援事業B型 どーむ	20
5. 短期入所・日中一時支援事業えんじゅ	23
6. 保健衛生事業	27
III. KOCO・ジャム事業部門	30
KOCO・ジャム事業部門全体総括	
1. 生活介護事業この里	32
2. 共同生活援助事業 ケアホームひかり	36
ケアホームこの葉	
3. KOCO・ジャム短期入所事業	39
4. 居宅介護事業ウイング	41
IV. 基幹相談支援センター部門	44
V. 法人全体事業	52
VI. 理事会・評議員会等	55
巻末資料：令和5年度 障害者センター利用状況一覧	56
令和5年度 KOCO・ジャム利用状況一覧	

I 事業総括

令和5年度事業運営状況について

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、「5類」へと移行された。それに伴い、事業運営が少しずつ変化し、活動の幅も若干ではあるが広がった。その一つとして、令和5年10月8日「万葉の里 オープンディ」を開催した。隣接する「いずみプラザ」外観の大規模修繕が実施されたこともあり、これまで開催していた「はばたけ！！ サンサンゆめまつり」とは異なる内容で、尚且つ、現在の自分達の活動をアピールすることを意識して取り組んだ。当日は、日頃の活動をお客様と一緒に行うブース（ボッチャ、組紐等の作業、エアロビ）、介護リフトを实际体験いただくブース、フラダンス、バンド演奏と当日まで練習したことを発表するブース、どのブースも利用者の方がお客様を迎え交流する姿があり、次年度以降に繋がる取組となった。

新型コロナウイルス感染症により変化を余儀なくされたことは沢山あるが、その中で新たなこととして獲得したことも多くある。国分寺市障害者センターは利用されている方々の特性から「ハイリスクに準ずる施設」ではあるが、活動の幅を次年度以降も少しずつ広げていきたい。

令和5年度は、国分寺市地域共生推進課による実地検査、労働基準監督署による調査と公的機関による監査が2件行われた。両方とも当然ではあるが、突然のことであり、数件の指摘を受けた。指摘については、肅々と改善に努めた。「時間外への取組」「業務時間中の休憩時間の確実な確保」と求められていることは理解できるが、一足飛びに改善にいたることは難しい課題である。事業形態がそれぞれ異なる中、「有休取得率が高い部署」「時間外の時間数が部署によって差異が大きい」「確実に休憩を取得できる部署とそうでない部署」等、働く環境をどう整えていくか課題の一つである。

経営面では、給付費等にて運営しているKOCO・ジャム部門において、収支のバランスが少しずつとれるようになっている。また、予算執行状況もほぼ想定とおりに進んだ年度であった。但し、地域活動支援センターつばさ、基幹相談支援センターにおいて、消費税を納付しなければならないことが年度途中で判明した（このことは、当法人のみに限らず、全国的に自治体を含め対応を求められる案件となっている）。国分寺市担当所管と協議を繰り返し行い、最終的に令和5年度補正予算を組み、令和6年度納付することとなった。これを契機として、これまで免税事業所から課税事業所となり、先の2事業所に影響を及ぼすのみならず、就労継続支援事業B型どーむの次年度以降の運営に影響をもたらすこととなった。

個人情報に係る事故、利用者間のトラブルにより怪我を負わせてしまった事故等が発生した年度でもあった。発生した案件について、当事者の方々にご理解をいただけるよう対応し、一定程度そのことは達成できたと捉えている。発生した案件の主な要因として、急いでおり確認が不足したこと、古い情報のままであったこと、職員の連携が不足していたこと等が要因であった。令和6年度も、発生した案件を心に留め、職員間、職員、主任、課長職、部門長間での連携、法人内での連携を図り、経営、支援、労働環境等「安全・安心な運営」に努めていきたい。

Ⅱ 障害者センター事業部門

Ⅰ. 事業全体を振り返って

Ⅰ) 事業運営

令和5年度はコロナウイルス感染症が5類に変更されたことにより様々な制限が緩和されたが、「ハイリスク施設に準じる施設」に求められる対応について衛生委員会で検討の上、状況に応じた対策を取りながら運営を行った。各事業においては、利用者が安心・安全な環境の中で活動できることを第一にしながら、休止していたプログラムの順次再開や新たな活動に取り組んだ。特に10月8日(日)の「万葉の里オープンデイ」では、「普段の活動の延長線上で、利用者がホストとして活躍する」ことをコンセプトに、利用者が慣れた活動・環境の中で来館者と交流し、地域の方々に普段の活動を知っていただく機会となり好評であった。今後もこのような取組を行い、利用者の経験の場を広げるとともに、地域の障害理解促進が図れるような機会を展開していきたい。

Ⅱ) 利用者支援

利用者の高齢化・重度化への対応や、医療的ケアを必要とされる方の受け入れ体制の強化に取り組んだ。特に看護師が1名増員になったことにより、支援力向上につながる様々な効果がみられた。生活介護事業太陽(以下「太陽」という。)では、支援員の医療的な知識増進や技術向上のため、医務研修やたん吸引等の基本研修を修了した職員の実技フォローアップを実施した。呼吸器装着者1名の単独通所試行も12月より開始し、様々なパターンの緊急対応シミュレーションを重ねて支援の構築を図っている。また、太陽の利用者で重度心身障害者の方や医療的ケアが必要な方の日中一時支援・短期入所事業の利用希望者も増加しており、看護師のスポット配置や、介護人の太陽でのOJT、就寝前等の必要時間に介護人を複数配置する等、利用者の方が安心・安全に利用できる取組を実施した。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

Ⅰ) 利用者支援の充実

①地域活動支援センターつばさ(以下「つばさ」という。)の相談支援事業については、計画相談と一般相談が連携してチーム支援ができることの強みを活かして、世帯で支援が必要な方や、障害サービスを利用するまでに整えの時間を要する方等の様々なニーズに対応をしている。サロン事業では、外出プログラムや地域イベントへの参加、地域の居場所の活用等、地域とのつながりを深めるための取組を強化し、利用者の体験の場を拡げた。

②太陽は2階フロアにリフトが導入されたことにより、車椅子やストレッチャーの方がフロアマットで活動する時間が増え、活動の充実や身体機能の維持向上に効果が見られている。呼吸器装着者2名については待機場所変更の時間を段階的に増やし、1名については単独通所試行に取り組むことができた。利用者同士のトラブルでケガ人が発生する事故があったが、そのことを契機として安全な環境設定、個別支援の見直し、参加意欲を高めるプログラムのあり方の検討等、様々な観点から支援の見直しを行い、改善に取り組んだ。

③自立訓練事業はばたき(以下「はばたき」という。)については機能訓練1日、生活訓練4日の運営に変更となり、連続して通所できる機会が増えたことの効果もあり、利用率の上昇につながった。オンラインでの説明会や相談支援事業所への訪問説明を行い、関係者からの問い合わせ

等も少しずつ増えてきている。利用者の活動の場の広がりとして、オープンデイでの音楽発表をきっかけに、センター内の行事での発表や、地域のイベント（ハート de フェスタ）への参加などがあり、個人の意欲向上とグループ活動の充実等の良い効果がみられた。

④就労継続支援事業B型どーむ（以下「どーむ」という。）については再アセスメントを行い、利用者の現状に合った利用の仕方（時間数の変更）やサービスの変更（生活介護事業への移行等）につなげた。利用者会議を月1回行い、情報共有や業務内容の改善、売り上げアップのアイデア等、利用者の意見を取り入れて意欲向上に努めている。

⑤日中一時支援事業では週末の多目的室利用を継続して、児童の利用増加に対応した。また、短期入所事業では、看護師のスポット配置、就寝前等の時間に介護人の二人配置、ペースト食の導入等を行い、医療的ケアの必要な利用者が安心・安全に利用できるような環境を整え実施した。

2) 経営の安定化

特別支援学校高等部からの実習生を、太陽4名（3年生1名、2年生3名）、どーむ4名（3年生2名、1年生2名）受け入れ、その内1名が令和6年度のどーむの利用契約につながった。その他、見学や実習も随時受け入れ、ご本人のニーズ把握に努め、利用調整を図り、どーむ1名、はばたき2名の新規利用契約があった。また、利用率向上への取組として、休みがちな利用者については必要に応じて面談や訪問を行い、体調把握や生活相談等を継続した結果、長期お休みされていた太陽の利用者1名が通所を再開することにつながった。また、通所日の変更や日数増加を希望している利用者については、安心して通所できる環境を整え、ご本人の希望にできるだけ応えられるよう努めた。

3. 人材の確保・育成

新たに入職した職員が確実に定着するように、入職時期を問わず計画的に研修が実施されることと、現場でのOJT進捗状況についても課長を中心として進捗管理を行った。業務上必要な資格取得・更新については法人全体で計画的に取り組んだ。また医療的ケアへの対応強化として、外部講師による医務研修を継続し、喀痰吸引等3号研修の計画的受講と実技のアフターフォローを行う等、知識と技術の向上に努めた。体調不良（メンタルヘルス、腰痛などの身体の不調等）の職員については、早期から関わり長期化するのを防ぐとともに、主治医・産業医の指示に基づいた復職プランを検討し、体調に応じた復職支援を行った。えんじゅ介護人についてはネット求人サイトを活用して人員確保に努めている。また介護人研修、OJT（研修期間中の二人体制での勤務）、太陽での研修（移乗、食事介助など）等を行い、介護人の育成に努めた。

Ⅰ 地域活動支援センターつばさ

Ⅰ. 事業全体を振り返って

Ⅰ)事業運営

計画相談においては、令和5年度は人員体制が整い体制加算（要医療児者支援体制加算・行動障害支援体制加算・精神障害者支援体制加算）を取得した。相談支援から見えた課題を基幹相談支援センターと連携して自立支援協議会にあげていく地域体制強化共同支援の取組を継続した。日々の相談支援の実践から取得できる加算は意識して算定し、相談支援の質の向上のための評価を事業運営にも反映している。一般相談では、複数の課題が混在するケースについては計画相談と連携して初回相談の対応を行った。複数の視点からアセスメントを行うことで、利用者一人ひとりの相談背景の理解と課題整理を行い、相談支援に活かした。計画相談へのスムーズなつながりにもつながっている。

サロン事業では、利用者が自分の力を発揮し、共に楽しい時間を過ごすことや自分のペースで過ごせる時間を大切にすることで、生活の広がりや充実につながるよう支援している。新しい利用者登録が増えており、現在の利用者像に合った活動設定を検討しながら実施を重ねた。

普及啓発活動は市民福祉講座（年3回）、高次脳機能障害関係機関連絡会（年3回）、発達障害者支援関係機関情報交換会（年2回）を開催し、計画通りの回数を実施できた。当事者が講師として、疾患や障害について実体験を語ることで、参加者がより身近に障害について関心を持つきっかけとなっている。今後も、当事者の声の力を活かした企画を実施する。また、対面での意見交換も再開し、高次脳機能障害の支援に関するコンサルテーションも開催した。次年度以降の企画にもつながる1年となった。

Ⅱ)利用者支援

市内全体で新規の計画相談受け入れが厳しい状況があるなか、市からの計画相談の依頼の際には調整し新規相談を受けた。一般相談の傾向としては、サービスにつながっていない若年層（20代～30代）からの相談が増えている。交流サロンやプログラム活動の問い合わせも多く、実際に新規登録につながる人がいる一方、様々な生活課題の整えが必要な場合もあり、すぐにはサービスにはつながりにくい人もいた。

プログラム活動については、現在の利用者のニーズに合った活動展開ができるよう、参加しやすい環境設定について検討しながら開催した。令和5年度から昼食を含む外出活動も再開したほか、新たに外部の施設を借りての活動展開も進めている。相談支援事業と連動して、これからサービスを利用しようとしている人への第一歩につながる活動の場や、生活に楽しみが得られる場、仲間との交流の場として活用できるように取組を継続している。登録をしなくても利用できる体験的プログラム活動については、周知も含めて活用の検討の必要がある。

Ⅲ)OJTの実施

年間を通して12回実施した内部研修では、精神疾患について基礎を学ぶことを通して障害理解を深め、自らの支援を振り返ることができた。また、スタッフ間の意見交換が活発になり、チーム支援の意識と利用者個別支援の視点を深めることにつながった。その他、内部の会議を活用して利用者支援の事例検討を実施し、支援の方向性を確認する取組を積み重ねた。日々の相談支援においては、相談員個人ではなく、つばさとして相談支援を行っている意識を持つことを繰り返す

重ね、記録等を活用し、チームとして対応内容や支援の方向性を共有することを大切に取り組んでいる。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 相談支援事業

事業名	到達状況	課題
1. 相談員の質の向上	・相談支援体制の強化を図る一環として、各種体制加算を取得した。 ・各相談員が参加した研修や会議の資料、最新の制度や社会資源、訪問した事業所情報等、相談支援に関する情報の共有等を意識的に実施することが定着した。 ・基幹相談支援センターのスキルアップ研修やコンサルテーションに参加し、支援にあたり本人の背景を知る視点や支援の考え方、関わり方への学びを深めることができた。	・市内において相談支援体制の充実が優先すべき課題となっている。相談支援の中核を担う事業所として、相談支援体制の強化を継続する。 ・引き続き、基幹相談支援センターと連携し、相談支援を通して把握できた地域課題を障害者地域自立支援協議会に挙げていく。
2. チーム支援体制	・チーフミーティングにて新規相談の対応や相談支援の枠組みを検討することが定着し、一般相談と計画相談双方が支援方針を共有して取り組む形ができてきている。 ・一般相談の初回面談に相談支援専門員が同席することで、スムーズな計画相談への移行が実施できた。	・チーム支援体制については一定の方向性はできてきた。地活部門、計画部門はそれぞれ専任業務として行いながら、互いに協力し合って相談支援を行う取り組みを継続する。
3. 地域移行・定着支援	・精神保健福祉部会及び部会の下部組織の地域移行支援会議、基幹主催のコンサルテーションに参加し、対象ケースについての検討を行った。	・支援の体制はあるが、ケースがない状況がある。引き続き精神保健福祉部会及び地域移行支援会議に参加するなかで、対象ケースの検討を継続する。
4. 業務効率の改善	・相談支援事業所連絡会にて計画相談請求時の必要書類が整理されたため、内部書類について手続きが重なる書類を精査し、事務効率化を進めた。 ・業務用携帯、持出用 PC の活用により、関係機関や外出時の連絡調整等の業務効率があがった。	・計画相談の請求業務について、検討が必要な段階にある。

2) サロン事業

事業名	到達状況	課題
1. プログラム活動	・健康体操プログラムを再開し、開催場所は地域のレンタルスペース「恋ヶ窪ベース」で行う取組を始めた。また、地域の居場所である東元町の「にわには」の場所を借りて、イベントプログラムを実施し、社会福祉協議会や市民団体の協力のもと、地域の中で、地域とつながりながら活動を行う新たな取組を行った。 ・プログラム活動の内容と業務手順をわかりやすく視覚化する取組を行った。参加者の立場に立ち、わかりやすく参加できる方法等の活動運営を再検討し、これまでの方法を見直す機会にもなった。 ・活動を通して、スタッフは本人の持っている力のステップアップを支えることも大切な役割であることを確認した。経験を積み重ねる大切さや、挑戦してできたことの嬉しさをともに分かち合うことができた。	・地域の居場所や交流スペースを活用した企画を引き続き検討する。 ・現在の利用者にあったサロン事業の内容について検討を継続する。
2. 余暇活動事業	・令和5年度から新たに取り入れた集団でのレクリエーション活動は、交流の機会の充実やコミュニケーショントレーニングにもつながっている。 ・国分寺市内のボッチャ交流会への参加継続のほか、地域センターでの余暇活動も定着した。 ・利用者が経験を重ねる中で、センター周辺の外出活動から、公共交通機関を利用しての外出コースに発展し、活動の場が広がってきている。	・参加者一人ひとりの個性や関係性から集団活動を行ううえでの配慮点や職員間の連絡体制を整理し、利用者が参加しやすい環境設定を行う。

3) 普及啓発事業

	到達状況	課題
1. 市民福祉講座	・予定通り年3回の市民福祉講座を実施し、会場集合型の講演会と後日のYouTube配信の開催スタイルが定着した。普及啓発事業を計画的に実施するため、開催時期は4月（発達障害啓発週間）、8月、12月（障害者週間）の年3回とする方向性を整えた。	講演内容については、当事者の実体験の語りから障害理解を深める講座開催が参加者の満足度が高い。次年度も当事者講師への依頼を継続する。

2. 関係機関との連携	・高次脳機能障害関係機関連絡会では当事者を講師に招き対談型講演会を開催した。当事者が自身の経験を自身の言葉で語ることを大切にした。 ・発達障害者支援関係機関情報交換会ではライフステージの変化を意識した【切れ目ない支援】【居場所】をテーマに対談形式で開催した。	外部施設を借用し、日中の対面での開催を通して、関係機関の連携を深める連絡会開催に取り組む。
-------------	--	---

3. 活動実績

1) 相談実績 総数	10,371 件 (総合相談 3,644 件、計画相談 6,727 件)
平均相談件数	32.71 件 (実働日 317 日)
新規相談	83 件

①相談支援の方法 (単位 件)

種別	訪問	来所	同行	電話	メール	CC	関係機関	その他	計
総合相談	34 (48)	264 (323)	17 (55)	3,092 (3,342)	1 (7)	10 (17)	181 (382)	45 (40)	3,644 (4,214)
計画相談	650 (563)	604 (529)	99 (69)	1,701 (1,876)	27 (91)	58 (77)	3,534 (3,364)	54 (51)	6,727 (6,620)
計	684 (611)	868 (852)	116 (124)	4,793 (5,218)	28 (98)	68 (94)	3,715 (3,746)	99 (91)	10,371 (10,834)

() 内は昨年度実績 *CC(ケースカンファレンス)：関係者会議。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

②相談内容

一般相談	(単位 : 件)	(構成比%)	計画相談	(単位 : 件)	(構成比%)
福祉サービス	325	7.19	福祉サービス	5,574	61.56
障害理解	376	8.31	障害理解	1,338	14.78
健康医療	311	6.88	健康医療	730	8.06
不安解消	2,263	50.03	不安解消	321	3.55
保育教育	5	0.11	保育教育	207	2.29
家族・名間関係	515	11.39	家族・名間関係	407	4.50
家計経済	27	0.60	家計経済	91	1.01
生活技術	166	3.67	生活技術	117	1.29
就労	67	1.48	就労	105	1.16
社会参加・余暇活動	333	7.36	社会参加・余暇活動	75	0.83
権利擁護	6	0.13	権利擁護	24	0.27
その他	129	2.85	その他	65	0.72
地域移行	0	0.00			
合計	4,523	100.0	合計	9,054	100.0

※相談内容は、1回の相談の中で複数の内容がある場合は、それぞれの項目に計上。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

③計画相談の契約数：契約者数 330 名(3 月末)

サービス等利用計画作成件数	305 (328) 件	() 内は昨年度実績
モニタリング 報告件数	558 (542) 件	

2) サロン事業

①プログラム別参加者数

(単位 名)

プログラム名	令和 5 年度	平均参加名数	実施回数
交流サロン	782	2.55	307
パソコン広場	60	2.61	23
アートサロン	89	4.24	21
ハンドクラフト	42	4.20	10
健康体操教室	24	1.85	13
合計	997	—	—

②つばさトーク

開催予定	テーマ	参加者
9 月 7 日	学習会「防災について考えよう」 講師：つばさ職員	11 名
1 月 6 日	書き初め（プレイスと合同）	8 名

③いきいきプログラム

開催日	内容	参加者
4 月 23 日	ポール体操	5 名
5 月 28 日	バランスボール	8 名
6 月 25 日	マットでストレッチ	4 名
7 月 28 日	フラダンス	8 名
9 月 24 日	フラダンス	5 名
10 月 22 日	フラダンス	8 名
1 月 28 日	楊名時太極拳	6 名
2 月 25 日	楊名時太極拳	7 名
3 月 24 日	楊名時太極拳	4 名

④スペシャルプログラム

8 月 21 日	外部施設を利用した小物制作・カレー作り	1 名
10 月 28 日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	8 名
11 月 25 日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	6 名
12 月 23 日	季節のアート教室（羽子板作り・プレイスと合同）	8 名
3 月 30 日	花見	10 名

⑤たがやし隊

開催日	内容	参加者
4月6日	野菜の種を植える	0名
4月20日	草取り、ブーケづくり	3名
5月18日	野菜の苗を植える	1名
6月1日	ハーブの収穫、花の摘み取り	0名
6月15日	花壇に花・ハーブを植える、わき芽とり	1名
7月6日	じゃがいもの収穫	2名
7月20日	追肥、支柱立て	1名
9月14日	草取り	0名
10月5日	花壇整備	0名
10月19日	屋上の草取り	1名
12月14日	花の苗植え・ブーケ作り	1名
2月8日	花壇の整備、1年の振り返り	1名
3月21日	しおり作り	2名

⑥ﾌﾟﾚｽ

日程	内容	参加者
5月6日	レクリエーション①	10名
6月3日	レクリエーション②	8名
7月1日	七夕飾りづくり	9名
8月5日	クラブ祭り	7名
8月11日	ボッチャ大会	8名
9月2日	運動知能能力	10名
10月7日	外出説明会、カラオケ	7名
10月28日	ノルディックウォーキング（スペシャルプログラムと合同）	8名
11月25日	ノルディックウォーキング（スペシャルプログラムと合同）	6名
1月6日	書き初め（つばさトークと合同）	8名
2月3日	話し合い・レクリエーション	10名
3月30日	お花見	10名

⑦WRAP(元気回復行動プラン)グループ

日程	内容	参加者
4月15日	WRAPと元気に役立つ道具箱	3名
5月13日	元気に大切な5つのこと①	4名
6月10日	元気に大切な5つのこと②	3名
7月8日	日常生活管理プラン・ストレスと対応プラン	3名
8月12日	注意サインと対応プラン・調子が悪い時と対応プラン	3名
9月9日	クライシスプラン・クライシス後のプラン	2名
10月14日	否定的な考えを肯定的に変える	2名
11月11日	ピアサポート	5名
12月9日	仕事に関すること	3名
1月13日	トラウマからの回復	4名
2月17日	自殺予防について	5名
3月9日	その他：生活空間、暮らし方、やる気	5名

⑧高次脳機能障害支援促進事業 プログラム<高次脳機能障害関係機関連絡会>

日程	内容	実績
6月22日 (木)	内 容：高次脳機能障害の基礎理解 ～環境調整と補完手段～ 講 師：守矢 亜由美 氏 (東京都心身障害者福祉センター 地域支援課 高次脳機能障害者支援 担当 課長代理) 講 師：長原 陽子 氏 (一般社団法人一粒福祉会 デイオアシスマほろば/ ワークオアシスアレーズまほろば 看護師)	36人 (会場15人、 オンライン21人)
11月8日 (水)	内 容：当事者と当事者を支える家族、それぞれの思い 講 師：鈴木 大介 氏 (文筆業/高次脳機能障害当事者) 講 師：柴本 礼 氏 (イラストレーター/当事者家族) 講 師：長谷川 幹 氏 (世田谷公園前クリニック リハビリテーション科医師)	59人 (会場24人、 オンライン35人)
3月13日 (水)	内 容：当事者が語る 高次脳機能障害と私の就労 講 師：Y.T氏 (高次脳機能障害当事者) 講 師：蟹江 こうじ氏 (就労移行支援事業所レジリエンス 管理者/公認心理士/ ソーシャルワーカー) 講 師：長谷川 京子氏 (就労移行支援事業所レジリエンス 就労支援員)	36人 (会場14人、 オンライン22人)

⑨対面朗読者派遣事業 登録者数 5名 派遣回数 12回

⑩発達障害者理解促進事業 プログラム<発達障害者支援関係機関情報交換会>

日程	内容	実績
1月17日 (水)	内容：ライフステージの変化を意識した切れ目ない支援を考える ～児童期から成人期へ～【成人編】 ファシリテーター：田中 哲 氏 (こどもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長) パネリスト：佐藤 實 氏 (東京都立小児総合医療センター思春期デイケア 看護師) 澁谷 龍之介 氏 (就労移行支援事業所ディーキャリア府中オフィス 管理者／ ジョブコーチ) 小林 亜紀 氏 (国分寺市障害福祉課 係長／保健師)	22人 (会場9人、 オンライン13人)
2月21日 (水)	内 容： ライフステージの変化を意識した切れ目ない支援を考える ～児童期から成人期へ～ 【支援編】 ファシリテーター：田中 哲 氏 (こどもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長) パネリスト：佐藤 實 氏 (東京都立小児総合医療センター 思春期デイケア 看護師) 澁谷 龍之介 氏 (就労移行支援事業所ディーキャリア府中オフィス管理者／ ジョブコーチ) 小林 亜紀 氏 (国分寺市障害福祉課 係長／保健師) 松崎 貴弘 氏 (放課後等デイサービスハッピーテラス拝島駅前教室管理者／ 公認心理師)	26人 (会場12人、 オンライン14人)

⑪市民福祉講座

日程	内容	実績
4月8日 (土)	内 容：発達障害のある人の自立 ～育ちの過程での生きづらさやつまずきを知る～ 講 師：田中 哲 氏 (子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長)	62人 (会場27人、 YouTube25人)
8月19日 (土)	内 容：「わかりやすい障害福祉サービス入門 ～障害福祉サービスの基本を押さえよう～」 ① 講演 ②館内見学ツアー 講 師：小杉 理氏 (地域活動支援センターつばさ 相談支援専門員／精神保健福祉士) 小林 亜紀氏 (国分寺市役所障害福祉課 相談支援係長／保健師)	84人 (会場23人、 YouTube61人)
12月9日 (土)	内 容：『もう一度、社会の役に立ちたい』 ～多様な働き方による社会参加を支える取り組み～ 講 師：N 氏 (高次脳機能障害当事者) 講 師：中村 由美 氏 (東京 YMCA 医療福祉専門学校 作業療法学科 学科長) 講 師：長谷川 京子 氏 (就労移行支援事業所レジリエンス 就労支援員) 講 師：蟹江 こうじ 氏 (就労移行支援事業所レジリエンス 管理者／公認心理士／ ソーシャルワーカー)	46人 (会場14人 オンライン32人)

2 生活介護事業太陽

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

感染症分類の変更に伴い、コロナ禍により縮小傾向だった活動を充実させることに注力する1年間だった。特に、公共交通機関・公共施設・商業施設など社会資源の利用や地域交流などの社会参加活動は昼食を含む外出を再開したこともあり、コロナ禍以前と同様に充実したものとなった。一日外出や昼食外出といった活動の再開に伴い、行事の計画や準備での利用者の参画の幅が広がり、個々の意見を積極的に取り入れることで意思決定支援、意思形成支援に繋がった。その他、一堂に会する行事も再開するに併せて法人内での合同行事にも力を入れ、事業内にとどまらず様々な人との交流の機会を創出した。

2)利用者支援

主任2名を含み複数名の異動者・新入職員がいたこともあり、昨年度に続き個別支援計画作成を通した利用者理解に取り組んだ。支援に携わる職員全員が個別支援会議に臨み、現行の計画書やサービス等利用計画にも触れながら、支援の根拠となる計画への理解を深めた。また、計画作成についてはサービス管理責任者研修を修了した課長・主任を中心に計画案を立案しているが、計画と支援の結びつきを強化するため副主任による計画案の作成を試行した。より現場支援に近い副主任が計画案を作成することにより、計画に基づいた支援への意識が高まり、支援の目的や理由が職員間で共有されてきている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 利用環境を整える	見合わせていた運動系プログラムや外出、余暇活動を全面的に再開した。また、今まで分散して行っていた行事や利用者自治会なども一堂に会して行っており、それに伴い多目的室の活用が定着し、使用頻度が上がっている。	現在取り組んでいる3F活動室の環境整備を継続する。活用するエリアが広がる為、活動スペース、パーソナルスペース、休憩スペースなどレイアウトを検討し、変更と修正を重ねて利用者が活動しやすく、見守りが十分なされる環境に整える。
2. 医療的ケアのある方の支援の充実	一部変更はあったが第三号研修の基本研修履修については概ね予定通り行った。実地研修については、事前のシミュレーターを活用した研修体制を確立し、程度手順を定着させてから行うことにより、研修時の利用者の負担を軽減している。また、医務研修についても計画通り実施しており、これまでの研修等の取組から、支援職と看護師の相互理解が進み、協力体制・連携が充実してきている。事業所登録に向けては資料	第三号研修については引き続き履修者を増やしていく。また、実地研修後にもシミュレーターを活用した研修を継続し獲得技術の維持に努めているが、実施の機会がなく獲得した技術や知識が薄れてしまう現状がある。登録に係る書類の作成を進め、早期に事業所登録を行い、支援職員が医療的ケアを実施できる体制を整える。それに伴い、登録後実際に支援職が行う医療的ケア

	請求・作成に取り組み始めている。	の内容について看護師と協働して検討する。
--	------------------	----------------------

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

① 利用者の推移（令和5年4月1日～3月31日）

新規利用者	3名	新卒者1名、児童の特例受入1名、他市より転入者1名
退所利用者	2名	他事業所へ移行1人 介護保険事業所へ移行1人

② 年齢別利用者数（令和6年3月31日現在） 平均年齢 36歳11ヶ月 （単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
2	12	16	12	4	2	48

③ 利用者の障害支援区分（令和6年3月31日現在） 平均 5.5 （単位：人）

区分2	区分4	区分4	区分5	区分6	合計
1	0	5	7	35	48

④ 1日平均利用者数 平均 35.1人 （単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	37.6	37.2	36.9	37.3	33.9	34.0
（前年）	(36.6)	(35.5)	(36.2)	(37.0)	(24.6)	(34.8)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	35.5	35.5	35.1	34.6	35.6	35.8
（前年）	(36.5)	(36.9)	(34.6)	(35.6)	(36.3)	(37.0)

⑤ 障害手帳（令和6年3月31日現在） 重複あり（単位：人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
9	25	4	1	22	8	0	0	2	1	0	3	0

2) 行事等の実施状況

①行事

4月	入所式（通所事業合同）	3日	利用者全員
	お弁当給食	20日	利用者全員
5月	施設交流会（オンライン）	5月19日	利用者10人・職員6人
8月	ミニ縁日	9日	利用者全員
	宿泊体験	31日～9月1日	利用者3名・職員2名
9月	宿泊体験	9月7日～8日	利用者3名・職員2名
10月	一日外出	4日	利用者4名・職員4名
	宿泊体験	5日～6日	利用者4名・職員4名
	オープンデー	8日	利用者全員
	一日外出	12日	利用者4名・職員3名
	お弁当給食（通所事業合同）	18日	利用者全員
	一日外出	20日	利用者4名・職員3名
	東経大作品販売	26日	職員1名
11月	国分寺まつり	15日	職員2名
	一日外出	9日	利用者4名・職員4名
	一日外出	10日	利用者3名・職員3名
	一日外出	16日	利用者3名・職員3名
	一日外出	17日	利用者4名・職員4名
	一日外出	30日	利用者4名・職員2名
12月	創作展示販売	5日～7日	利用者全員
	クリスマス音楽会	20日	利用者全員
	ランチdeコース（通所事業合同）	21日	利用者全員
1月	二十歳を祝う会（通所事業合同）	18日	利用者全員
2月	昼食外出	1日	利用者5名・職員4名
	昼食外出	5日	利用者4名・職員3名
	昼食外出	6日	利用者4名・職員4名
	昼食外出	9日	利用者3名・職員2名
	昼食外出	19日	利用者4名・職員3名
	昼食外出	20日	利用者3名・職員3名
	昼食外出	27日	利用者3名・職員3名
3月	昼食外出	7日	利用者5名・職員3名
	昼食外出	11日	利用者4名・職員4名
	納め会（はばたき合同）	15日	利用者全員

※利用者全員を対象とした行事については、一部ZOOMを活用し密を避けて実施している。

②その他

*東経大コラボ事業として学生とのクラブ活動・交流を11回実施している。

*本人支給金：4月・7月・10月・1月に支給した。

*実習生受け入れ：小平特別支援学校より2名・武蔵台学園より2名・他区より転入1名

職場体験実習 国分寺市立第三中学校より3名

社会福祉士援助実習2名 他、職員交換研修2名

3 自立訓練事業はばたき

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

今年度は、新たな事業形態（生活訓練4日、機能訓練1日開所）で「支援の三本柱（①生活支援 ②就労支援 ③社会参加）」を基本とした事業運営を新しい職員体制でスタートした。その効果として、火曜日・木曜日に分かれていたリハビリ専門職3名が同日に従事することで積極的な情報共有・連携ができ、利用者支援の充実、支援力向上につながった。周知活動及び情報発信では、オンライン説明会と事業所訪問を実施した。昨年度はほぼ無かった新規の利用相談が、令和5年度は10件以上の問い合わせがあった。4年間に渡り説明会などの周知活動に取り組んだ成果が徐々に表れていると考えられる。一方で利用につながったのは、上半期に問い合わせがあった2件だけであった。

2)利用者支援

利用者支援では、新たな事業形態による運営により4名の利用者が機能訓練と生活訓練を併用した。併用することにより、様々な支援者の視点で利用者を捉えることができ、支援の三本柱を基本として身体機能面及び利用者の生活全般に焦点をあて支援することができた。次年度も新たな利用者の受け入れ及び修了者を予定している。

3)OJTの実施

自立訓練事業は支援者の動き方や活動内容の組み立てなど、直ぐに理解することが難しい事業である。日々の活動や支援が何のために行われ、個々の利用者の背景や環境、精神状況の変化などを伝え、疑問点などを解決し、次の支援につなげ、活かせるよう振り返りの時間を設けた。現在は自立訓練事業の役割や目的について徐々に理解を示している。加えて、組織全体をみて、法人の職員として業務にあたるよう意識向上に取り組んだ。また、リハビリ専門職は身体機能回復の支援が主であるため、障害特性などの情報を提供し支援者とリハビリ専門職が積極的に情報共有をすることで、効果的なケアとなるよう努めた。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 「支援 の三本 柱」を 軸とし た支援 の展開	今年度、本格的に取り組んだ音楽活動では対人関係スキル、気持ちのコントロールなど様々な作用、効果を得ることができた。 3月末には、本多公民館での音楽会に参加することができ、社会参加の機会となった。就労支援では、ハローワークでの発達障害者専門相談への新たなつながり、社会参加支援では近隣の美術館、博物館利用など幅広く外出活動を行なった。 事業の周知については、次年度も引き続き取り組む必要がある。新たなパンフレットを基に市内相談支援事業所へ訪問などを実施したが、十分ではないと考えている。	「支援の三本柱」を意識したプログラム活動に取り組んできた。次年度は取り組んできたプログラム内容を整理しつつ、基本プログラムを形にしていきたい。また、それらを事業説明の資料やパンフレットに反映させ、「はばたき」の役割や運営内容をわかりやすくしたい。 問い合わせ内容から利用に至らなかった要因を振り返り、利用相談があった際の対応方法・手順マニュアルを作成し、利用に至るまでの流れを標準化する。

	ただ、問い合わせそのものは増えており、ここ数年の取組が少しずつ浸透していると捉えている。	
2. チーム連携の強化と情報発信	メールなども活用して各関係機関と連携、情報共有することに取り組んだ。その結果、利用者を中心とする家族、各関係機関が同じ方向を向き支援、課題解決に取り組むことができています。支援ケースによっては利用者本位、利用者主体という視点で考え方の違いを感じることも多く、各事業所と積極的に連絡調整を図り連携を深めていきたい。	ケアマネジャーとのやり取りにおいて自立訓練事業に対する理解や認知度が低いと感じており、介護保険への周知活動が今後のポイントと捉えている。オンライン事業説明会では、これまで約 200 か所の事業所を対象に案内を送付した。こちらから情報発信をしているのみで、双方向のやり取りに発展せず、自立訓練事業の認知度アップにつながっていない。特に医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャーへの周知活動が必要だと考えており、つながり強化のための取組を模索したい。
3. 利用環境の整備	のり、はさみなど個々に分類し、ケースに収納した。そのことにより、出し入れなど取り扱いやすくなり、自主的、自発的に棚から書籍や活動に必要な道具を出し入れされるようになった。また、利用者から「同じようなケースを買いたい」との声があり、購入や生活環境改善のサポートを行った。それに伴い、準備や後片付けも利用者が中心となって取り組む場面が増え、利用者が活用しやすい環境が整った。	環境整備については、一定の目標が達成できたと考えている。引き続き、整理・整頓をしながら、柔軟に必要な対応を講じていく。

3. 利用者の状況

① 利用者の推移（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

新規利用者	生活訓練：2人	
	機能訓練：2人	
退所者	生活訓練：0人	
	機能訓練：2人	1名は機能訓練修了後、生活訓練の日数増となった。

② 年齢別利用者数（令和6年3月31日現在）

生活訓練 平均年齢 45歳4ヶ月

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	2人	0人	0人	1人	2人	5人

機能訓練 平均年齢 47歳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	1人	0人	0人	1人	1人	3人

③ 障害別利用者数（重複あり）（令和6年3月31日現在）

生活訓練

精神障害	発達障害	知的障害	てんかん	高次脳機能障害	身体障害
3人	3人	1人	0人	1人	2人

機能訓練

精神障害	脳血管障害	頭部外傷	進行性難病	脊椎損傷	言語障害	肢体不自由	てんかん	高次脳機能障害
3人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人

④ 1日平均利用者数

生活訓練＜開所日：月・水・木・金曜日＞ 平均 3.7人 （単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2.2	3.0	4.4	4.1	4.5	4.3
（前年）	(2.6)	(4.2)	(3.7)	(4.6)	(3.9)	(4.2)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	4.5	4.3	4.4	4.4	4.5	3.9
（前年）	(4.6)	(3.8)	(3.0)	(3.0)	(2.1)	(2.0)

機能訓練＜開所日：火曜日＞ 平均 3.2人 （単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2.3	3.4	4.8	3.5	3.6	3.3
（前年）	(2.5)	(3.0)	(3.0)	(3.0)	(2.8)	(1.6)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	4.0	3.8	3.8	3.8	2.8	3.0
（前年）	(1.5)	(1.8)	(1.6)	(1.9)	(1.3)	(1.3)

⑤ 施設及び病院等訪問

施設及び病院等 訪問	オアーゼ新町（GH）	4月24日（月）見学
	井之頭病院	4月26日（水）関係者会議
	夢の樹	5月24日（水）関係者会議
	アレーズ	6月9日（金）見学
	ラウンドワン	7月14日（月）一日外出
	夢の樹	7月21日（金）見学
	まほろば	8月2日（水）見学
	オハナ	9月6日（水）見学
	ともしび工房	9月13日（水）見学
	立川リスルホール	9月19日（火）見学
	ハローワーク立川	10月2日（月）就労相談
	プラッツ（相談支援事業所）	10月18日（水）訪問
	すこやか（相談支援事業所）	10月19日（木）訪問
	ワークスペースひなた（B型）	10月23日（月）見学
	野川公園	10月26日（木）外出
	ラミュール（相談支援事業所）	11月6日（月）訪問
	サンサロン（生活介護）	11月21日（火）見学
	ハローワーク立川	12月6日（水）就労相談
	サンサロン（生活介護）	12月19日（火）体験同行
	ワークスペースひなた	12月22日（金）体験同行
	地域包括支援センターもとまち	12月25日（月）訪問
	ちえホーム	1月11日（木）見学
	立川職業センター	2月14日（水）職業評価
		2月26日（月）職業評価
	みくま（A、B型）	2月28日（水）見学
	ともしび工房（B型）	2月29日（木）面談同行
	ともしび工房（B型）	3月1日（金）実習同行
	ディーキャリア（就移）	3月11日（火）訪問
	あさやけ喜平橋（B型）	3月21日（木）

4 就労継続支援事業B型 どーむ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

新型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行し、イートインの全面的な再開や、イベントへの参加を再開した1年になった。そのことにより、喫茶いずみではイートインは、カフェタイムのみとしていた営業から7月には、店内での喫食を開始した。併せて、お弁当販売も継続して実施した。弁当販売については、地域の固定客の方に支えられ、店内での喫食は「いずみプラザ」を利用された方が立ち寄ってくださるようになり、両者ともに一定程度の客数を確保できるようになった。スイーツの製品販売については、イベントが再開し、お仕事ネットワークの販売会の他、国分寺まつりや東京経済大学尾崎ゼミとの学内販売、生協での常設販売等、積極的に取り組んだ。清掃業務については、見学者の受け入れ等を随時実施したが、業務に携わる利用者増には繋がらなかった。結果、令和6年度より市内の公園トイレ清掃の受託は行わないこととした。

2)利用者支援

年度当初は契約者数18名で開始した。8月に新たな利用者1名を迎えたが、年度において5名の方が利用終了となった。そのうち4名の方は、精神的な不調や体調面が整わないことによる入院、高齢になり体力面等の理由により、通所を継続するか否かについて、ご本人・ご家族と計画相談を交えて検討した結果利用終了となった。終了後2名の方は生活介護事業へ移行、または移行予定である。実習生や見学者を随時受け入れ、特別支援学校高等部1年生2名、高等部3年生2名の実習受け入れを行った。その内、特別支援学校高等部を卒業生した方を令和6年度は新規に受け入れた。

3)OJTの実施

部署の会議内で活発に意見交換が行われ、事業としてのチームが構成されている。今年度は主任を中心にOJTが行われ、日々の支援の中で計画に沿った支援が実施できるよう、職員一人ひとりが個別支援計画に基づく支援を意識的に取り組んできた。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 作業内容の構築	作業内容について、職員間で検討し、これまで職員が行ってきた作業を利用者が一人で行うことができるよう、作業内容の構築を図った。	市役所の移転に伴い、事業運営に活かせることはないか検討していきたい。 また、新規の事業形態を取り入れることを想定した場合、利用者一人ひとりの得意とすることを見極めていく必要があり、作業の見直しを含め取り組みたい。また、事業形態の変更等が想定される際は、利用者の方に分かりやすく説明を行い、引き続き「どーむ」で意欲的に働くことができるよう取り組みたい。

2. 利用者支援	清掃業務については、従事する利用者の確保に取り組んできたが、新たな利用者確保には繋がっていない。清掃部門に従事する利用者が少ないことが長年の課題となっており、工賃の見直し等を実施したが効果が得られていない。利用者会議を毎月行い、作業等に関する説明の場を設けるとともに、利用者の意見を取り入れる機会とした。利用者の希望もあり、年末には忘年会を行った。	今後も利用者の確保を目的として、実習生や見学者の受け入れを行う。
----------	--	----------------------------------

3. 利用者状況等

1) 利用者の状況

① 年齢別利用者数（令和6年3月31日現在） 平均年齢41.86歳 (単位：人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
0	3	3	2	5	1	14

② 1日平均利用者数 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用数	6.5	6.6	6.8	6.1	6.0	6.3
前年度	(7.5)	(7.3)	(7.3)	(7.0)	(5.8)	(6.4)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	6.9	6.6	6.8	6.1	5.8	6.4
前年度	(6.8)	(7.0)	(6.4)	(6.9)	(6.7)	(7.2)

③ 利用者の障害の状況（重複障害あり） (単位：人)

精神障害	てんかん	知的障害	発達障害	肢体不自由	聴覚障害	高次脳機能障害
7	3	5	1	1	2	0

④ 障害支援区分 (単位：人)

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4
5	1	2	5	1

⑤ 活動内容【活動種別】

種別	活動内容
喫茶いずみ	調理・弁当の提供・店内清掃
スイーツいずみ	製造・店頭販売・地域イベントに出店
清掃	市役所（第2庁舎）の清掃業務・公園トイレ清掃

【週間活動スケジュール】

月	火	水	木	金	土	日
喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	清掃	イベント 時販売
喫茶 スイーツ	喫茶 清掃	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ 清掃(不定期)	喫茶 スイーツ		

※清掃場所＝市役所第2庁舎

※喫茶営業：月～金曜日 11：30～15：00 土曜日：市役所清掃、公園トイレ清掃、制服洗濯等

⑥ 行事等

実施日	行事名	場所	実施人数
7月13日	東経大デモ販売	東京経済大学	利用者1名 職員2名
10月8日	万葉の里 オープンデー	障害者センター	利用者8名 職員3名
10月26日	東経大デモ販売	東京経済大学	利用者2名 職員1名
11月5日	国分寺まつり出店	武蔵国分寺公園	利用者3名 職員2名
12月1～7日 (1週間のうち どーむは3日間 販売担当)	冬のスイーツ&ハンドメイドフェア (お仕事ネットワーク販売会)	国分寺セレオ	利用者4名 職員2名(各日)
12月4日	利用者忘年会 (ビンゴ大会)	障害者センター 3階活動室	利用者14名 職員3名
12月10日	国分寺市民生委員誕生90周年記念 ミンジーフェスティバル	cocobunnji プラザ リオンホール	利用者1名 職員2名
1月18日	東経大デモ販売	東京経済大学	利用者2名 職員1名

⑦ その他

利用者会議・お仕事ネットワーク毎月実施

東経大コラボ会議：4月17日、5月22日、6月26日、9月25日、10月30日、
11月27日、1月30日 対面にて実施

東京経済大学構内、生協常設販売：4月6日、6月19日、9月28日納品

5 短期入所・日中一時支援 えんじゅ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

日中一時支援事業では、昨年同様土曜日に多目的室での受入を継続した。短期入所事業では、同室2名利用を再開したことで延べ利用数が増加した。緊急入所保護事業に関しては、3件の受入れをおこなった。うち2件は7日を超える受入れとなった。

2)利用者支援

児童の支援では、「こどもの発達センターつくしんぼ」を見学し、児童への関わり方や受入れ前の確認事項書類などを確認した。児童が理解しやすい言葉や伝え方、できたことを褒める声掛けのポイントなどを介護人に伝え共有し、以降の支援に活かしている。医療的ケア者（児）（以下医ケア者）の支援に関して、利用者受入れ時の介護人・看護師それぞれの役割を明確にした工程表を作成した。お互いに情報共有と相互理解が深まる事で、安心して受入れできる環境を整えた。また、医ケア者以外の車椅子ご利用者の受入れの際も、看護師と協力し安全に取り組んだ。

3)OJTの実施

令和5年度は介護人会議を2回開催した。虐待防止・身体拘束・個人情報取り扱いなどの研修をおこない知識向上を図るとともに、介護人全体で様々な情報共有を図った。介護人の確保については、求人サイトへの募集を定期的に行い、採用へと繋がった。入職当初は、先輩介護人との2名配置もおこない安全を確保し、安心して利用者支援に臨めるよう配置した。また、コーディネータが支援の現場に入り直接OJTをおこない、介護人の支援方法の確認やスキルアップを図った。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 利用者支援	児童の支援では、①個々の特性を理解して対応する②家族との連携強化③複数の介護人で支援する。この3つを組み合わせて安全な支援を提供した。 医ケア者・重心の方への支援では、食事介助時・移乗時・また夜間の発作などへの対応のため、必要時は介護人を2名配置して受け入れ、安全を確保してサービス提供した。一方で、車椅子利用者へ入浴を提供できない状況がある。	介護人2名での移乗方法でも危険を感じる場面がある。天井走行式のリフトの設置を今後も継続的に市と話し合う。 車椅子利用者の入浴支援について、浴室環境などの設備面・人員配置・入浴支援スキル確保の3点が大きな課題となっており、現状では解決が難しい。入浴サービスの提供基準等の制度を改めて確認すると共に、どうしたら実施できるか検討し、市とも協議を重ねる。
2. 安心して受入・支援ができる環境を整える	緊急入所保護事業において、利用登録のない利用者を受入れる場合、支援に必要な情報が不足していることがあった。初日の受入れは職員が対応し、アセスメントをしっかりとこなした。ご本	情報や持物の不足に対応するため、緊急入所保護対応中は市の担当所管との相談連携を強化し、連絡体制を整えて利用者や支援者の不安軽減を図る。また、車椅子利用者が緊急入所保護となった場合、現在使用

3. 介護人の確保	人と家族の状況を把握することで安心して受入れ・支援ができ、その後の移行準備もスムーズに整えることができた。 求人サイトを通しての募集は応募が多く、採用もスムーズだが、定着率が低い点がある。無資格者・未経験者も多く、介護人として一人立ちできるまでに時間を要する。また、数か月から1年で契約終了するケースもあり、常に人員募集をおこなう状態が続いている。	している部屋での受入れは環境上の困難さがある。今後利用が増えることを予測して、施設内の設備を使用することが可能かと確認していきたい。 休憩時間の導入など、介護人が長く安心して働ける労働条件と環境をつくっていく。同時に依頼件数が確保され収入が安定していくことも必要と考える。
------------------	--	--

3. 利用者の状況

1) 活動実績

① 短期入所事業

(単位 日)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	令和4年度
4月	35	2	14	0	0	51	46
5月	40	4	17	3	0	64	47
6月	44	4	19	1	0	68	50
7月	44	6	21	2	0	73	52
8月	31	0	17	0	0	48	39
9月	39	4	22	0	0	65	54
10月	38	2	20	0	0	60	50
11月	40	0	22	0	0	62	41
12月	30	2	21	0	0	53	52
1月	34	0	22	0	0	56	49
2月	35	4	19	0	0	58	43
3月	42	4	27	0	0	73	48
合計	452	32	241	6	0	731	571

※男性が450日、女性が281日、男性の利用が多い。キャンセル40日あった。

② 日中一時支援事業

(単位 時間)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	令和4年度
4月	82	100	40	0	0	222	154
5月	43	62	50	0	0	155	150
6月	64	44	27	0	0	135	107
7月	58	111	49	0	0	218	171
8月	35	152	49	0	0	236	228
9月	30	71	54	0	0	155	157
10月	73	77	56	0	0	206	154
11月	58	104	50	0	0	212	128
12月	39	78	71	0	0	188	195
1月	29	85	46	0	0	160	164
2月	28	73	62	0	0	163	132
3月	50	116	65	0	0	231	226
合計	589	1,073	619	0	0	2,281	1,966

※前年度児童の利用が978時間から1,073時間、成人は988時間から1,208時間と若干増加している。また、176時間のキャンセルがあった

③ 緊急入所保護事業

	件数	日数	令和4年度件数	令和4年度日数
4月	1	9	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	0	0
7月	0	0	1	3
8月	1	1	1	2
9月	0	0	0	0
10月	1	7	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	0	0
1月	0	0	0	0
2月	0	0	0	0
3月	0	0	1	3
合計	3	17	3	8

※3件のうち2件は7日を超える期間となった。

④医療的ケアのある方の日中一時支援事業利用

	令和5年度			令和4年度		
	人数	日数	時間数	人数	日数	時間数
4月	1	1	2	0	0	0
5月	1	1	5	1	1	5
6月	0	0	0	1	1	4
7月	0	0	0	1	1	7
8月	0	0	0	2	2	10
9月	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	1	1	5
11月	0	0	0	1	1	5
12月	0	0	0	0	0	0
1月	1	1	5	0	0	0
2月	1	1	3	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0
合計	4	4	15	7	7	36

⑤医療的ケアのある方の短期入所事業利用

	令和5年度		令和4年度	
	人数	日数	人数	日数
4月	2	4	2	4
5月	2	4	1	2
6月	2	4	2	4
7月	2	4	1	2
8月	0	0	1	2
9月	2	4	1	2
10月	1	2	1	2
11月	2	3	2	4
12月	2	4	1	2
1月	2	4	2	4
2月	1	2	1	2
3月	2	4	1	2
合計	20	39	16	32

※うち、1名は定期的に利用

※うち、2名は定期的に利用 新規利用はなし

⑥ キャンセルと介護人休業手当状況

	短期入所	日中一時	令和5年度 休業手当金額	令和4年度 休業手当金額
	日数	時間		
4月	2	11	18,795	29,702
5月	7	17	46,488	8,432
6月	4	21	22,018	18,510
7月	2	20	12,003	3,498
8月	10	16	42,113	40,125
9月	2	10	6,027	33,662
10月	7	13	28,443	2,254
11月	0	6	5,246	13,564
12月	2	14	15,381	19,089
1月	0	24	8,743	17,053
2月	0	24	2,206	1,171
3月	4	0	13,914	8,478
合計	40	176	221,377円	195,538円

※コロナの影響で6～8月のキャンセルが多くあり、休業手当金額は昨年度を上回った。

6 保健衛生事業

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

人工呼吸器装着者の支援として、段階的に進捗を図りながら継続して行い、安心安全な実施に努め、単独通所を試行した。また、定期的な医療的ケア研修の開催や、支援職員の研修受講を計画的に行い、看護師及び支援員のスキルアップサポートを行い、中期計画と連動し、引き続き人材育成に取り組んだ。感染症対策としては、新型コロナウイルス感染症が5類となり、その他の感染症も含めて感染拡大防止を引き続き行い、情報の収集・提供を図り、状況に合わせた対応に努めた。休職者には復職プログラムに沿った労働環境の整備に努め、健康診断後には、必要に応じて医療機関の受診を勧奨するなど、アフターフォローに努めた。看護師を1名増員し、医療的ケアを中心に支援の充実を図るとともに、看護師及び支援員のスキルアップサポートを行った。中期計画と連動した役割を担える人材育成に取り組んだ

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業	到達状況・課題
医療的ケアの必要な方の支援の充実	① 人工呼吸器装着者の支援では、単独通所を目標として、半日の待機場所変更や、単独通所の試行を段階的な進捗を図りながら実施した。安心安全な実施に向けて支援職員と看護師が互いに連携し、継続していく。また、外部講師による医療的ケア研修の開催や、支援職員のたん吸引等の研修受講など、医療的ケアが必要な方への理解、医療的知識や技術のスキルアップサポートに努めた。事業者登録を行い、支援職員が医療的ケアを実施できる体制づくりとして継続を図りながら、安定して実施できる体制の整備をしていく。 ② 日中一時支援・短期入所事業では、利用者の重度化による医療的ケアの対応や嚥下機能の低下に伴う食形態の調整や食事に関するサポートを行い、連携を図った。医療的ケアが必要な方が安定して利用できるように看護師の体制を整える必要がある。
感染症対策	新型コロナウイルス感染症、流行性の感染症の感染拡大防止を引き続き行い、嘱託医と連携を図りながら情報の収集・提供を図り、必要物品の確保など、状況に合わせた対応に努めた。嘔吐物処理研修を各事業で開催し、予防接種（インフルエンザ）を勧奨することで感染拡大防止を図った。研修については、状況に合わせた開催方法で職員の衛生面のスキルアップサポートを行い、継続して感染症対策に努める。
利用者や職員の健康管理	利用者の健康診断受診は、市の保健事業、医師会の健診、主治医など、個々の状況に合わせた手段で関係機関と連携を図り、健康把握に努め、結果を嘱託医と共有し、事後の対応に繋げるサポートを引続き行った。休職者には、産業医と連携を図り、復職プログラムに沿って労働環境を整えるなど、復職に向けてのサポートを行った。職員の健康診断受診や受診後に必要に応じて医療機関受診の勧奨をし、自身で改善・解決できるようにアフターフォローを行った。引き続き行い定着を図っていく。

看護師の 人材育成	看護師の増員により、医療的ケアを重点的に行える体制を整えた。支援職員の医療的ケア実施のための研修指導員を担うなど、引き続き医療的ケアを中心とした支援の充実に向けて医療面のスキルアップサポートや職員の健康管理など、看護師それぞれが役割を担える体制づくりを計画的に行う。法人職員として引き続き必要な知識の獲得と、情報共有を行い、全体研修や職員会議、所属する事業所が開催する会議に参加できるように体制を整えた。
--------------	--

3. 事業内容

1) 生活介護事業 太陽

- ①健康診断：毎月第1・第3金曜日 計24回実施
- ②定期健康診断：年1回（嘱託医1回・市の保健事業や医師会健診も活用した）
- ③健康相談：必要時に対応（本人・家族・職員対象に、必要時嘱託医との面談を行い医療機関を紹介した）
- ④歯科健診：年1回（6月1日）
- ⑥ブラッシング指導：月に1回 計12回
- ⑦感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
- ⑧細菌検査年2回（全員異常なし）
- ⑨受診同行4回・家庭訪問10回・緊急時対応2回・関係者会議2回・医療的ケア対応（人工呼吸器の管理・経管栄養・気管切開部の管理・痰の吸引・導尿・褥瘡処置・発作時座薬挿肛・洗腸）・マニュアルの見直し・主治医との連携
- ⑪毎日の健康チェック、服薬管理、活動への参加、送迎添乗
- ⑫主治医・地域医療機関との連携
- ⑬リハビリ会議・PT/OTとの連携・福祉用具の作成や導入の支援
- ⑮摂食支援：摂食会議への参加

2) 自立訓練事業 はばたき（機能訓練・生活訓練）

- ①必要時バイタル測定・体重測定・外傷処置・栄養相談・健康相談
- ②随時・定期健診の受診勧奨
- ③細菌検査（年2回）利用者全員異常なし
- ④ブラッシング指導

3) 地域活動支援センターつばさ

- ①外傷処置・体調不良者の対応
- ②健康相談・病院紹介・電話相談（随時）

4) 短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

- ①利用者の把握と体調不良時・急病・外傷などの対応、健康相談
- ②救急セットの管理、衛生管理
- ③痰の吸引・経管栄養など医療的ケアを必要とする利用者の対応

5) 就労継続支援事業B型 どーむ

- ①毎月の細菌検査：（毎月全員異常なし）
- ②健康相談
- ③感染対策：手洗い研修1回
- ④随時：健康相談・栄養相談

6) 生活介護事業この里

- ①健康診断：毎月1回 計12回
- ②定期健康診断：年1回（市の保健事業を活用した）

- ③健康相談：必要時に対応
- ④感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
- ⑤細菌検査年2回（全員異常なし）
- ⑥随時：健康相談・栄養相談・ブラッシング指導
- 7) 共同生活介護事業・ケアホームひかり・ケアホームこの葉
 - ①利用者の健康管理・入院時の対応・健康相談・感染症対策
 - ②衛生管理・家族との連携
- 8) 職員
 - ①健康診断 年1回（深夜業従事者 年2回）
 - ②細菌検査 年2回 対象職員のみ（5月、1月：全員異常なし）
 - ③緊急受診・健康管理と健康相談・メンタルヘルス相談・予防接種の勧奨など
 - ④嘔吐物処理研修
- 9) 要医療的ケア者の受け入れ状況
 - ①通所：経管栄養（6名）たんの吸引（6名）吸入（1名）
呼吸器（3名）褥瘡処置（1名）
日中一時：経管栄養（4名）たんの吸引（1名）
短期入所：経管栄養（1名）たんの吸引（1名）夜間不要
 - ②医療的ケアの実施、実施に向けて主治医との面談・指示書依頼、家庭訪問
- 10) 研修
 - ①医務ミニ研修実施 2回（外部講師による）
 - ②職員全体研修参加（外部講師による）3回：看護師全体
 - ③内部研修参加 看護師全体

Ⅲ KOCO・ジャム事業部門

Ⅰ. 事業全体を振り返って

Ⅰ) 事業運営

令和5年度は新型コロナウイルス感染症による様々な制限が緩和され、各事業においても現状に即した活動や生活様式への見直しを図った。利用者が安心・安全な環境の中で、より活動や生活の幅を拡げ、新たなチャレンジに取り組んでいけるよう、見直しをする際のポイントとして取り組んだ。年間を通した取組としては、概ね順調に進捗したと捉えている。収支においてもバランスが取れるようになり、運営と収支両面で安定した事業運営となりつつある。職員配置については、年間を通して求人媒体の活用や大学等への働きかけ等を行い、居宅介護事業所ウイング（以下「ウイング」という。）のヘルパーとグループホームの非常勤職員の募集を重点的に行った。ウイングでは新たに9名のヘルパーを採用した。グループホームでは、契約職員1名の退職に伴い、新たな職員を採用するに留まった。新年度に向けて、各職員と面談等を実施し、勤務時間数増加や調整等を行ったことで、令和6年度は所属職員のみでシフトを組める状況となっている。また、令和5年度はKOCO・ジャム全体で事業を超えた協力体制を整えた。お互いの事業についての理解や日常業務の連携に繋がり、職員へのOJTとしても有効的であった。次年度も継続して取り組みたい。

Ⅱ) 利用者支援

活動や生活においては、積極的に地域に出る機会を増やし、利用者一人ひとりのニーズに応じた支援に取り組んだ。生活介護事業この里（以下「この里」という。）では、継続的な課題であった利用者の体力増加と体重減少を目的に、東京都委託事業「障害者の運動習慣定着支援事業」に取り組んだ。利用者皆が積極的に楽しく参加され、一年を通した利用者の変化について、東京都の担当者からも非常に高い評価をいただき、令和6年度も形を変えて継続することが決まった。グループホームでは、一人ひとりの生活ペースを大事にした支援をこれまでも実施してきたが、利用者個々の思いや気持ちを引き出す支援に取り組み、日常の生活がより豊かになるよう支援に反映した。ウイングでは、全体的に支援件数が増えているが、特に移動支援が大幅に増加しており、希望に添えるようヘルパーの調整を行った

Ⅱ. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

Ⅰ) 利用者の確保と利用率の向上

この里では、上半期に小平市の相談支援事業所への訪問を実施。下半期に小平市の利用者1名が利用開始となった。また、例年同様に武蔵台学園の各学年の実習生を受け入れ、3年生2名が新年度からの利用につながった。ウイングでは、相談支援事業所等への働きかけ等、地道な取組の成果が出てきており、全てのサービスで前年度を上回る成果が出ている。その中でも移動支援は年間で約500時間の増加と大幅な伸びがみられた。居宅支援に関しては、利用者数も時間数も前年度を上回ったが、目標の数字には届かなかった。この葉では、2つの空室が埋まり満床となったが、利用率は横ばいであった。短期入所では、3名の利用者が定期的に利用をしており、安定した利用率となった。

Ⅱ) 体験型短期入所事業の整備

男性ユニットについては、上半期に居室をみらいユニットに変更し、利用者1名が定期的に体験

利用を実施した。下半期に2名の利用希望を受けており、新年度からの利用に向けて調整を行っている。女性ユニットについては、利用者2名が定期的に利用しており、利用日数や曜日等を変更し、様々な体験を積んでいる。新たに1名の利用希望があったが、GH入居が決まり、利用には至らなかった。

3) GH利用者の生活基盤の整備と利用者の変化に対するアセスメント

各ユニットで、利用者のニーズに応じた生活の基盤作りや一人ひとりの気持ちや思いを引き出し、できることを増やしていく、生活を豊かにしていく支援に取り組んだ。特にこの葉みらいユニットでは、利用者個々の利用目的や目標を改めて確認し、目的に応じた生活づくりと一緒に考え、グループホームが生活基盤となるように支援した。また、令和4年度に作成した認知面と身体面についてのアセスメント様式の試行を開始した。その時々利用者の認知面と身体面の状態を把握し、客観的に変化を捉え、必要な支援や社会資源の活用につなげていく予定である。

4) 支援力の向上

例年と同様に「万葉の里で働くあなたへ」の読み合わせを各事業で行った。日々の支援に落とし込み、法人として大事にしている支援の根拠を職員間で共有した。この里では、「支援における実践研究・実践報告」の準備や発表を通して、一人の利用者の数年間の支援を振り返った。取組を通して、利用者の意思や希望を尊重することの大切さ、アセスメントによるニーズの汲み取りの重要性を改めて確認する機会となった。また、KOCO・ジャム全体での協力体制により、普段は関わらない利用者との関わりや、所属事業以外での支援を経験することで、利用者理解を深め、支援について広く考える機会となり、支援力の向上にも繋がったと捉えている。

5) 地域との連携

各事業で積極的に地域に出る機会を多く作った一年であった。グループホームでは移動支援等を活用して、個別に外出する機会を増やした。繰り返すうちに、利用者自身から行きたい場所やしたいことなどの発信が増え、利用者の生活の幅が広がったと感じている。この里では、下半期より買い物代行を開始し、すでに常連のお客様も付いている。また、自治会や防災活動、地域のイベント等、様々な機会を活用し、地域の方々と交流を深めてきた。今後も地域の方々との関りを大切に、連携を意識した事業運営を行っていく。

6) 人材育成

定期的に課長面談を実施。事業計画や法人のキャリアパスシートを共有し、各職員の目標や役割を確認した。主任や副主任には、次世代を担う職員として、管理職と共に事業運営全体を考えることができるよう指導を行った。意見が言いやすく、上司に相談しやすい、風通しの良い職場環境の整備に取り組んできたが、事業を超えた協力体制を整えたこともあり、職員間でのコミュニケーションも円滑になってきている。

Ⅰ 生活介護事業この里

Ⅰ. 事業全体を振り返って

Ⅰ)事業運営

令和5年度は、新規利用者2名を迎え、契約者数18名となったが、年度末で利用終了された方が1名おり、17名での終了となった。令和5年度は見学(6件)、実習(武蔵台学園6名含め8名)を受け入れた。下半期には、小平市の計画支援事業所を訪問し、市外から1名を受け入れた。新年度より定員をほぼ満たす状況となっているが、今後受け入れを行う際には、市外からの受け入れ人数や男女比を考慮していく。

Ⅱ)利用者支援

職員体制として、新年度より1名、年度途中で1名の職員を迎えて、支援体制を整えた。個別支援計画に沿って、ショートステイやガイドヘルパーの利用を含めて、生活全般の質の向上に取り組んだ。また、東京都の運動習慣定着支援事業を取り入れることにより、利用者全般のニーズである運動の機会を提供できた。地域での活動といった視点においては、2月より買い物代行を開始し、また様々な催事に参加し、販売活動やフラダンスの披露を行った。令和6年度は、各職員が利用者個別の障害特性に応じた支援ができるよう、また、社会生活の一端を担っていることを意識し、包括的な視野をもった支援を目指す。

Ⅲ)OJTの実施

年2回の課長面談を実施した。実践研究の取組を通して、支援の振り返りや検証を行い、支援力の向上につなげた。また、各職員のキャリアに応じた外部研修、興味に応じた研修に参加することで、支援力の向上のみに留まらず、意欲の維持と向上も図ることができた。令和5年度は1名が正規職員への登用となったが、令和6年度も正規職員への登用を図り、正規職員のキャリアアップと新規職員及び非常勤職員の支援力向上を目指す。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
Ⅰ.新規利用者獲得	上半期には小平の相談支援事業所を訪問した。それとは異なるルートで、下半期に小平市在住の方を1名受け入れた。武蔵台学園の実習を継続的に受け入れ、その結果、令和6年度より、2名の方が新たに利用することとなった。	近隣市からの受け入れは、送迎ルート等利用状況を踏まえて、運営上支障がでないように考慮しながら受け入れていく。また、職員配置等の支援上の視点から、男女比を考慮した募集を行う必要がある。
Ⅱ.作業活動	令和6年2月より、買い物代行を開始し、常連の方も獲得できた。お仕事ネットの受注や催事での販売が増え、作業活動が充実した。また、地域の行事等の参加により、販売の機会も増えた。	買い物代行については、需要に応じて、実施エリアの見直しや内容の精査を行う。催事や行事での販売に加えて、定期的に販売ができる場を確保する。業者の都合で人気商品が販売中止となったことを受け、販売品選定の再検討と、あわせて製作品の改良や見直しを行う。

3. 余暇活動	個別支援計画に沿った、個別のニーズに応じ、催し物や研修等の情報提供を行い、参加できるように支援した。東京都の委託事業である「運動習慣定着支援事業」を通年で行うことにより、利用者全体のニーズであった、体を動かす機会を多く提供できた。地域での行事や催し物に多数参加し、フラダンスや歌の発表を行った。	全体の行事や催事等の活動とのバランスを図りながら、個別活動の実施を検討する。 「運動習慣定着支援事業」を、来年度も継続し、事業所だけの活動のみならず、地域の施設を活用し、地域社会の中での障害者の運動定着に取り組む。活動の成果として、より良い発表の場とするため、年間を通して計画的に行事等の参加日程を組んでいく。
---------	---	--

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

年度当初、利用契約者数 17 名で開始し、3 月に 1 名の受け入れ、年度末での利用終了者 1 名があり、年度末の契約者数は 17 名であった。令和 6 年 4 月に新卒者 2 名を迎え、令和 6 年度は 19 名での開始予定である。年度末の時点で 2 名の方が入院療養中となっている。

① 利用者の推移（令和 6 年 3 月 31 日現在）

近隣市から新規利用 1 名	終結者 1 名
---------------	---------

② 年齢別利用者数（令和 6 年 3 月 31 日現在） 平均年齢 35.4 歳 （単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
1	5	4	6	0	1	17

③ 利用者の障害支援区分（令和 6 年 3 月 31 日現在） 平均 4.5 （単位：人）

区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	9	7	1	17

④ 1 日平均利用者数 平均 14.6 （単位：人）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
15.4	15.0	15.6	15.4	14.7	14.7
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
13.2	14.5	15.2	14.1	12.9	13.9

⑤ 障害手帳（令和 6 年 3 月 31 日現在） （単位：人）

愛の手帳				精神保健福祉手帳			身体障害手帳					
1 度	2 度	3 度	4 度	1 級	2 級	3 級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
	11	3	1	2	1		2		1			

⑥活動状況

【活動時間】

1日の流れ ※（ ）内は月・金、状況に応じ、グループ別に午前午後に分けて実施。

8:15	送迎開始①	13:00	作業 3 コマ（余暇活動）
8:30	職員朝礼	14:00	休憩
8:35	送迎開始②	14:15	作業 4 コマ（余暇活動）
9:00	利用者受け入れ	15:00	片付け・体操
9:45	朝礼・体操	15:20	掃除・降所準備
10:00	作業 1 コマ	15:50	終礼
11:00	休憩	16:00	送迎開始・降所
11:15	作業 2 コマ	17:30	清掃・消毒
11:45	午前作業終了		記録整理・職員ミーティング
12:00	昼食・昼休み		翌日準備
			職員退勤

【一週間の主なプログラム】

	月	火	水	木	金
1 コマ	仕入れ 野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ 野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
2 コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
3 コマ	スイミング/ 音楽/ その他余暇活動	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	フラダンス/ 話し合い/ その他余暇活動
4 コマ	スイミング/ 音楽/ その他余暇活動	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	フラダンス/ 話し合い/ その他余暇活動

※武蔵国分寺公園ボランティアは、月 2 回（第 2・第 4）

※障害者センターでの販売は、毎週木曜日に実施した。

※上記の作業に加え、月 1～2 回リビング折り・配布、不定期でのお仕事ネットの作業・買物代行、また、時期により法人広報紙封入作業、ニューズレター配架作業を実施した。

【行事】

4月	入所式	3日	利用者16名、職員7名
5月	国分寺市身体障害者福祉協会演奏会	30日	利用者12名、職員5名
6月	この里開所5周年を祝う会	19日	利用者16名、職員9名 人文字を作り、記念撮影を行った。
8月	戸倉自治会盆踊り	5日	職員4名(初めての参加の為職員のみ) 綿あめを販売。
	ミニ縁日	9日	障害者センターと合同で実施。 利用者16名、職員7名
9月	市民活動フェスティバルイベント	24日	利用者2名、職員2名 販売、ミサング体験、活動報告を行った。
	ブラッシング指導	27日	利用者13名、職員6名
10月	市民活動フェスティバル	2～31日	分散型イベントとして開催。
	万葉の里オープンデイ	8日	利用者11名、職員5名
	子ども家庭センター ぶんちっちまつり	14日	利用者3名、職員2名
	歯ミカップ	19日	利用者15名、職員6名 オンライン開催。
11月	国分寺まつり	5日	利用者2名、職員2名
	国分寺市ぶんぶんウォーク	17～30日	スタンプラリーの拠点として参加。
12月	多摩川競艇販売	19日	利用者3名、職員2名
	クリスマス会	15日	利用者16名、職員8名
	大掃除	28日	利用者15名、職員6名
2月	ブラッシング指導	26日	利用者13名、職員6名
3月	プレステマルシェ	3日	職員2名(初めての参加の為職員のみ) 国分寺市プレイステーションにて実施。
	家族会	15日	参加者9名
	Heart de Festa	23日	利用者14名、職員6名 13時～15時半。
	納め会	31日	利用者15名、職員6名

⑦ その他

＊利用者工賃：毎月25日支給

＊見学/実習受入れ：武蔵台学園3年生2名、2年生2名、1年生2名その他見学6件、実習2名
社会福祉士実習1名、社会福祉現場体験実習7名、夏体験ボランティア2名
早稲田実業学校中等部1年生ボランティア体験6名

＊地域施設活用：武蔵国分寺公園、国分寺市障害者センター、本多公民館、ひかり公民館、
子ども家庭支援センター、国分寺プレイステーション、けやきスポーツセンター
こくぶんじ市民活動センター、いずみホール、ボートレース多摩川

2 共同生活援助事業 ケアホームひかり・ケアホームこの葉

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

安心・安全な生活の提供のため、感染防止対策や健康管理については引き続き取り組んだ。支援の見直しや生活環境の整備に取り組み、一人ひとりのニーズに応じた生活作りに取り組んだ。この葉においては、空室となっていた男女各1室の新規利用が決まり、下半期には満床となった。

2) 利用者支援

各ユニットにおいて、利用者一人ひとりの利用目的や目標を改めて確認し、ニーズに応じた生活の基盤作りやできることを増やしていく支援、新しいことにチャレンジする支援に取り組んだ。また、高齢化や重度化への対応として、新たなアセスメント様式の試行を始めた。その時々を利用者の状態を把握し、変化に対して必要な支援を検討する取組を開始した。この葉では、あい/いろはユニットにおいて、生活全般の意欲向上を目指して、移動支援等を活用し、余暇活動の充実を図った。みらいユニットでは、各利用者と利用目的を再確認し、主体的に生活をしていけるよう利用者自治会を設けた。ひかりでは、余暇活動の充実や通院の多様化等に対して、利用者やご家族と相談し、様々な方法を模索した。高齢化へ向けた対応として、地域包括支援センターとの関係構築を目指して訪問を行った。

3) OJT の実施

年2回の課長面談を実施し、各職員の目標や課題を確認し、管理職と主任が共有してOJTに取り組んだ。また、職員一人ひとりが働きやすい職場となるよう、密なコミュニケーションを図った。KOCO・ジャム職員として、事業間での連携を目指し、協力体制を整えた。グループホーム職員が通所の応援に入ることで、支援における新たな視点を身に付けることに繋がった。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 安心・安全な生活基盤作り	あいユニットでは、ガイドヘルパーを利用し、2組でのカラオケ外出を実施した。いろはユニットでは、利用者発案の鍋パーティーを行った。みらいユニットでは、月1回の利用者自治会を行い、各自の目標や成果を発表し、互いの利用目的を共有することができた。 ひかりでは、利用者個別のニーズに則して移動支援等の外部のサービスの利用が進んでおり、高齢化への対応としてアセスメント用紙の使用を継続し、その最初の取組として、地域包括支援センターの訪問を行った。	ガイドヘルパー等の利用を進め、各自のニーズに沿った活動を行っていく。また、外出に限らず、利用者主体の行事や余暇活動が実施できるように取り組む。また、高齢化への対応に向けて、アセスメント様式の活用を継続し、利用者の変化を把握して、必要な社会資源や支援を検討していく。

2. 職員の確保	求人媒体の活用やポスティング等を実施したが、全く応募がない状況が続いた。その為、派遣職員を継続して活用している。短期入所事業えんじゅと必要に応じ情報交換を行い、新年度に向け職員確保に取り組んだ。KOCO・ジャム職員間で互いの事業に従事する等、連携を図りながら運営した。職員間で共通理解も進み、事業を超えて協力体制が日常となった。	派遣職員に頼らない職員体制を築く。その為、求人媒体の活用を継続し、国分寺市内の他グループホームと、情報交換を行い、効果的な職員確保の方法を模索する。
3. 職場環境の改善	記録ソフトの導入により、記録にかかる時間を削減することができた。ケアホームひかり、ケアホームこの葉それぞれにおいて、清掃、買い物、発注作業等、支援以外での業務の省力化を進めた。	記録ソフトに関しては、現在記録のみにとどまっているが、支援の振り返りや記録方法の見直しなど、支援への還元につなげるように活用する。また、支援以外の業務において効率化を進める。

3. 利用者の状況等

1) 利用者状況

【ケアホームひかり】

① 利用者数 12名 (男性6名 女性6名)

② 年齢別利用者数(令和6年3月31日現在) 平均46.4歳 (単位:人)

30代	40代	50代	60代	合計
3	5	3	1	12

③ 利用者の障害程度区分(令和6年3月31日現在) 平均4.1 (単位:人)

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
4	4	2	2	12

④ 障害別利用者数(重複あり) (単位:人)

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	11	4	16

⑤ 行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	7月6日、男女ユニット別で2回に分けて実施
避難訓練	9月20日に実施。地震を想定。

⑥会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月1回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回、定期開催	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修など
個別支援会議	利用者の誕生日及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

【ケアホームこの葉】

① 利用者数 15名 (男性 9名 女性 6名)

② 年齢別利用者数(令和6年3月31日現在) 平均 36.0 歳 (単位:人)

20代	30代	40代	50代	合計
5	4	5	1	15

③ 利用者の障害程度区分(令和6年3月31日現在) 平均 4.0 (単位:人)

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
4	1	4	0	6	15

④ 障害別利用者数(重複あり) (単位:人)

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	13	5	19

⑤ 行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	7月5日に実施。男女ユニット別で2回に分けて実施
避難訓練	9月19日に実施。地震を想定。

⑥ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月1回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回定期開催	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修など
個別支援会議	利用者の誕生日及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

3 KOCO・ジャム短期入所事業

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

昨年度の課題に取り組み、男性ユニット、女性ユニット共に、安定した利用者の受け入れを行うことができた。女性ユニットにおいては、2名の定期的な利用があり、利用日数や曜日等状況に合わせて変更しながら、目標に向けての支援ができた。一方、新規利用者の獲得については、1名の方と契約を行ったが、グループホームの入居が急遽決まったため、本利用がないまま終了となった。男性ユニットにおいては、受け入れた体制を整えたことにより、利用者1名の定期的利用につながった。

2)利用者支援

実践を繰り返しながら、スタッフ会議にて定期的に支援について検討する機会を設け、職員が統一した支援を行えるよう取り組んだ。法人外からの受け入れも開始したが、法人内の他事業を利用されている方と比較して、情報量に差があり、ご本人を取り巻く環境等について十分な把握ができず、ご家族との関係性も希薄な中で、「一人暮らしを目指すための実践の場」という、事業目的を共有することの難しさを感じた。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 運営の基盤の整備	支援の実績を積み重ねたことにより、受け入れから支援までの流れは、確立することができた。女性ユニットでは法人内から2名の方の定期利用があり、男性ユニットでは法人外から1名の定期利用者があった	開始当初は支援体制が確立していなかったこともあり、限られた職員が支援していたが、次年度からは、更に広く受け入れを行うことを目指す。そのため、利用目的を視野にいれた支援ができるように、受け入れ時や支援に関するマニュアルが必要である。
2. 目標を見据えた利用者支援	目標の設定時期は、各利用者の状況に応じて変えながら、長期目標を見据えた短期目標を設定して支援に取り組むことができた。ユニット毎スタッフ会議において、各利用者のニーズや目標を共有し、面談で得た情報も提供し、意図的な関わり方を伝えることで、共通認識を持ち支援に取り組むことにつながった。また、グループホームに入居されている方との支援の違いについての理解も深まった。	法人外の利用者の受け入れにあたっては、ご本人やご家族との関係性が構築できていないことで、長期目標や短期目標に対する共通認識が持ちづらい面もあった。定期的な振り返り面談を持ち、関係を構築しながら、共通認識を作っていく。 更に新規の受け入れを行っていくにあたり、支援方法のバリエーションを増やし、職員の支援力を上げていく必要がある。また、グループホーム入居者とは異なった支援に取り組みながらも、グループホーム内に設置されているという利点を生かせる支援に取り組んでいく。

3. 利用実績

① 利用者数 3名 (男性1名みらいユニット、女性2名あいユニット)

② 年齢別利用者数(令和6年3月31日現在) 平均40.4歳 (単位:人)

20代	30代	40代	合計
0	2	1	3

③ 利用者の障害支援区分(令和6年3月31日現在) 平均4.3 (単位:人)

区分4	区分5	合計
2	1	3

④ 障害別利用日数/利用実績 (単位:日)

	精神障害	知的障害	合計
4月	0	12	12
5月	0	12	12
6月	0	12	12
7月	0	14	14
8月	0	17	17
9月	0	15	15
10月	0	16	16
11月	0	16	16
12月	0	17	17
1月	0	17	17
2月	0	18	18
3月	0	16	16
合計	0	182	182

4 居宅介護支援事業 ウィング

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

コーディネーター2名体制での運営が2年目となり、業務の振り分けをしながら、1名体制ではできなかった広報や研修、ヘルパーの育成などに取り組むことができた。しかし、ヘルパー確保が思うようには進まず、利用者受け入れ人数の上限40名まで近づけることはできなかった。そのような状況ではあったが、すべてのサービスにおいて、去年の支援時間数より伸ばすことができた。特に移動支援においては、500時間以上の大幅な増加となった。ヘルパー確保に関しては、採用した年齢層や性別に対象を絞った募集方法を試したが、思うような成果は得られなかった。一方で、移動支援や同行援護においては、養成講座を通してヘルパーの登録者が増えた。ただし、男性ヘルパーの不足は依然続いており、需要に応じられない現状は続いている。

2)利用者支援

コロナ禍が落ち着き、コロナ以前よりも支援研修や支援時間数を増やすことはできており、安定した支援を提供できた。高齢化や身体状況の変化等に伴い、様々な課題を抱える支援が増えていく。一つの事業所だけでは解決できない問題も多くなっており、他事業所や他関係機関との連携が重要になっている。

3)OJTの実施

コーディネーターにおいては、年2回の課長面談を行い、事業計画の共有と各役職に応じた課題に取り組んだ。また、業務分担を明確にし、主任の負担を軽減し、主任として行うべき業務に取り組めるよう体制を整えた。ヘルパーに関しては、ヘルパー会議に全員が参加できるよう開催日時を工夫し、4回に分けて実施することで、支援力の向上とヘルパー間の横のつながりつくることのできた。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1.運営体制の安定	居宅支援に関しては、依頼件数そのものが多くはない状況であり、介護保険への移行や転居による利用終了もあり、支援数は減少した。支援時間数に関しても、目標を達成できなかった。しかし、重度訪問や同行援護、移動支援に関しては、大幅に目標時間数を上回った。育児支援に関しては、依頼が常にある状況だが、担当できるヘルパーの不足により、大きく増やすことが出来なかった。	新規依頼を受け入れるため、それぞれのサービスに合ったヘルパーの確保が必要である。居宅サービスについては、依頼件数自体が少ないため、計画相談事業所への空き情報の提供などを行い、新規依頼を確実に受け入れていくことで、関係性を築いていきたい。また、コーディネーターを含めて限られたヘルパーでの支援を行うため、支援の組み立てを再考する必要がある。

2. ヘルパーの確保と定着	男性ヘルパーの需要は多いが、男性ヘルパーは増えていない。短期入所事業えんじゅとの情報交換や連携を図ったが、勤務状況の違いもあり、人材確保は想定した通りには進まなかった。ただし、移動支援連絡会による養成講座により、移動支援のヘルパー確保は順調だった。ヘルパーのOJTについては、コーディネーターが可能な限り同行訪問し、支援状況の把握や見直しを行った。下半期には、4回のヘルパー会議を開催し、ほぼ全員が参加できた。	他事業所も含めて、全体的に男性ヘルパーは不足している状況であり、今後大幅に増加することは期待できない。同性介助は原則であるが、異性介助の可能性も踏まえて、支援の組み立てを見直す必要がある。養成講座を通じての募集活動は引き続き行い、ヘルパーの研修に関しても、他事業所と連携を図り、より良い研修の実施を目指す。同行訪問は行いつつも、すべての支援に同行は出来ないため、ヘルパーの定着に向けて働きやすい職場環境の提供に取り組む。
---------------	---	--

3. 活動状況

①派遣状況

	派遣時間 (時間)	利用者 (人)	居宅	重訪	同行	移動		育児	エル
						知的	児童		
4月	635.00	67	31	6	10	16	0	2	2
5月	683.50	64	31	7	10	12	0	2	2
6月	679.00	67	31	6	9	16	0	3	2
7月	712.00	72	31	6	11	19	0	2	3
8月	631.25	64	31	6	8	14	0	3	2
9月	712.00	67	29	6	11	17	0	2	2
10月	704.25	63	26	6	10	17	0	2	2
11月	720.50	67	25	6	11	20	0	3	2
12月	689.00	64	28	6	10	14	0	2	4
1月	656.00	66	29	6	9	19	0	2	1
2月	607.50	63	29	6	9	15	0	3	1
3月	636.75	70	28	6	10	18	0	5	3
合計	8066.75	794	349	73	118	197	0	31	26

② サービス別派遣時間

	身体 介護	家事 援助	重度 訪問	同行 援護	知的 移動	児童 移動	育児 支援	エル	合計
4 月	36.00	121.00	213.50	99.00	131.50	0.00	16.50	17.00	635.00
5 月	36.00	133.50	228.50	132.50	111.00	0.00	20.00	22.00	683.50
6 月	34.00	128.00	231.00	113.50	125.50	0.00	28.00	19.00	679.00
7 月	35.50	127.00	210.00	162.00	146.50	0.00	12.00	19.00	721.00
8 月	30.50	130.25	239.00	89.00	109.00	0.00	8.00	25.50	631.25
9 月	35.50	125.00	240.00	155.50	115.00	0.00	16.00	25.00	712.00
10 月	36.00	136.25	210.50	129.00	142.00	0.00	32.50	18.00	704.25
11 月	27.50	120.50	251.00	136.00	151.00	0.00	16.50	18.00	720.50
12 月	27.00	116.00	236.00	161.00	126.00	0.00	10.00	13.00	689.00
1 月	24.50	112.50	234.00	136.00	137.50	0.00	2.50	9.00	656.00
2 月	21.50	117.00	206.50	109.00	128.50	0.00	17.00	8.00	607.50
3 月	24.00	111.25	219.50	106.00	141.00	0.00	24.00	11.00	636.75
合計	368.50	1478.25	2719.50	1528.50	1564.50	0.00	203.00	204.50	8066.75

③ 会議等の実施状況

定例会議を毎月実施。ヘルパー会議及びヘルパー向け研修会を、下半期に4回に分けて実施。

IV 基幹相談支援センター

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

市との仕様書にある事業は、概ね予定通りに遂行できた。一方で、現在、市内の相談支援事業所は、新規の計画相談を受け入れる余裕はなく、困難な状況にある。加えて、2か所の相談支援事業所の廃業、市直営の障害児相談支援事業所つくしんぼ（以下、「つくしんぼ」という）の民間委託に向けた新規受け入れ中止による影響もあり、このままでは、年間約150名のセルフプランが増加していくことが予想されている。また、令和5年第2回の自立支援協議会全体会においては、この状況は危機的ではなく、「危機」であると確認された。相談支援体制の強化と充実は喫緊の課題であり、課題を解決するための会議体を招集することとなり、以下の取組が開始された。

- (1) 市・基幹・市内の社会福祉法人による相談支援体制検討プロジェクトチーム
- (2) 単独では機能強化できない相談支援事業所のための、複数事業所による協働型機能強化相談支援体制プロジェクトチーム
- (3) 新たに相談支援事業の開業を考えている障害福祉サービス事業所に対する、相談支援事業での黒字運営についての説明

2) 利用者支援

地域包括支援センターからの8050問題の相談が増加傾向にある。福祉サービスにつながっても課題が全て解決することは少なく、困難を抱えたままでの支援継続となるケースが多い。このようなケースの支援者を支えていくことも基幹職員の役割であり、「チーム国分寺」を念頭に置き、支援者からの相談を決してたらい回しにしないように努めた。一連の支援は、基幹単独で行うことはなく、常に障害福祉課と情報共有しながら1つ1つ丁寧に対応してきた。これらの姿勢や取組が関係機関における基幹への信頼感に繋がり、高齢福祉課主催の新任ケアマネ研修・生活支援隊養成研修講師の他、地域包括支援センター主催の小地域ケア会議への参加依頼をいただくようになった。令和5年度は新たに高齢福祉課主催のケアマネ研修や地域包括支援センター全体会での研修にも参加依頼をいただき、障害福祉についての説明や有意義な意見交換が行われた。また、高齢福祉課、地域包括支援センター、障害福祉課、基幹相談支援センターの四者で、障害者の介護保険へのサービス調整に関わる取組についての検討が始まった。障害者の高齢化が進む中、この連携は分野を超えた新たな取組のモデルとなる可能性があり、積み重ねていくことでより効果的な連携に繋がっていると期待される。

3) OJTの実施状況

基幹の職員として業務を理解し、業務遂行のため全職員が積極的に学ぶところから始め、積み重ねてきた。できないこと、失敗することを恐れず、それらを全ての気づきとして、ヒヤリハットを量産し、職員間で共有し、積み上げてきた。引き続き、基幹の役割を担うことができるよう、職員一人ひとり研鑽を重ね、これらを意識してOJTを実施していく。

(1) 国分寺市障害者地域自立支援協議会ニューズレター

自立支援協議会が発行するニューズレターの新企画は、第11号（令和4年度）から始まり現在、第14号まで発行した。文字による協議会の報告だけでなく、写真や地図を多用し、14号からQRコードで動画も見られる等、支援者がサービスを必要とする利用者と一緒に見てイメージを膨らませることができるような内容で作成した。この取組みは、協議会の石渡会長から、「おしゃれで、これほどの内容のニューズレターは都内には見当たらない」と評価をいただいている。これらの成果は、職員の様々な工夫やアイデアに加え、“より良いものを”と何度も基幹内で協議し、印刷業者に意図を伝えながら校正を繰返した結果と捉えている。現在、支援者向けに1000部を発行しているが

今後、更に多くの人に情報発信することも考え、紙での発行の見直しやウェブサイトでの発信等、発行の仕方を市と協議していく。

（２）基幹独自のホームページの充実

（ア）相談支援部会での協議を受け、インターネットに点在する防災に関する情報をホームページに集約して、情報を分かりやすく提供する「障害のある方むけの防災情報まとめサイト」を作成した。防災に関する有益な情報やツールを案内し、障害当事者やその家族、支援者が、必要な防災情報を入手できるようにした。また、言葉の理解が困難な方に配慮して、「やさしい日本語」のページも作成した。

（イ）令和６年４月１日より施行される「障害者差別解消法」の改正により、合理的配慮が義務化される。Web アクセシビリティへの対策も義務化となり、基幹では市民が閲覧することを想定するWeb ページの「Web アクセシビリティ」への対策に取り組み、主要な基幹コンテンツの国内規格「JIS X 8341-3:2016」の準拠度レベル A を達成した。

※情報アクセシビリティ：Accessibilityは「利用のしやすさ」のことで、高齢者、障害者をはじめ、あらゆるユーザーがパソコンやWeb ページなどの情報資源を不自由なく利用できる「ユニバーサルデザイン」の考え方。

（ウ）相談支援専門員をサポートする当該コンテンツを充実させてきたが、中でも「情報提供フォーラム」は令和４年度に１１４件、令和５年度（３月１８日現在）は２０４件の情報を発信することができた。ホームページのページ閲覧数は、令和４年度１１万２,５８３PVから令和５年度（３月１８日現在）２６万１８２PV（前年度比２.３倍）、訪問数は令和４年度１万２,７２８名から令和５年度（３月１８日現在）２万４,２９８名（前年度比１.９倍）と増加している。これらの情報発信は、相談支援専門員のサポートとして整備を始めたが、防災情報やグループホームの紹介動画等、年々充実し、想定をはるかに超える数の相談支援専門員が訪れてくれるようになっている。現状においては、一定程度の成果が出せたと捉えており、今後は必要に応じて外部業者等の活用を検討し、質の維持と向上を図っていく。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

１）相談支援事業所のサポート

- ・ １事業所の面談を実施した。全事業所（１２事業所）との面談の予定であったが、２事業所は年度末での廃業が決まっており、うち１事業所は、採算が取れないことが廃業理由であることを聞き取った。
- ・ つくしんぼのアウトソーシングが決定し、事業所引継ぎは中止となったが、既に引継ぎが決定していたケースは基幹が立ち会い、丁寧な引継ぎを行った。
- ・ 都内で黒字運営している相談支援事業所を訪問・情報収集し、国分寺市でできる方法を検討し、相談支援体制検討プロジェクトチーム（以下、「PT」という。）（４法人・市・基幹）と協働型機能強化相談支援体制PT（４事業所・市・基幹）を立ち上げ、新規事業所支援として黒字化運営方法の説明を２件行った。
- ・ 相談支援従事者初任者研修は５名、相談支援現任者研修は７名受け入れた。現任研修では、個別ケースから施設全体のコンサルテーションにつなげることや、相談支援事業所の運営状況等の課題を聞き取った。

２）コンサルテーションの実施

- ・ 予定では９ケース×２時間＝１８時間のところ、９ケース（１０回）×２時間＝２０時間実施した。

・令和4度コンサルを受けた事業所は6事業所だが、令和5年度は4事業所であった。

3) 相談支援専門員向け研修の企画・運営（基本：新任研修1回/年、ブラッシュアップ研修1回/年、勉強会2回/年）

・新任研修：1回

例年通り、障害福祉課から計画相談における請求等について、新任の相談支援専門員を含め参加者全員で学ぶ機会をもった。

・ブラッシュアップ研修：8回

危機状態にある相談支援体制の改善のために相談支援事業所の黒字化を図るための勉強会を行い、相談支援体制検討PT編成につないだ。

・事例勉強会：1回

つくしんぼのケース（児童から成人へ）の引継ぎケースがないこと、相談支援体制の問題解決のため、開催を1回とし、ブラッシュアップ研修を増やした。

4) 支援者向け虐待防止研修の企画・運営

・毎年12月開催が定着し、年々参加者が増加している。虐待防止と身体拘束禁止についての研修は悉皆研修となっており、市内の各事業所の研修会として利用いただくため、会場とオンラインとのハイブリットにし、参加しやすい場所で事業所の職員が同時に受講できる利便性を追求してきた。

5) ネットワーク研修の企画・運営（スキルアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、地域ネットワークの構築と拡大

・ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）は元都立精神科病院と地域の精神科病院の看護師の仕事に視点を当て企画した。研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉の連携）は、8050世帯への支援について精神科病院の医師を招いた。研修Ⅲ（障害児）は障害児のいる家族支援の研究者である大学教授を招いて開催した。

・市内の地域包括支援センター6事業所の訪問を実施した。

・社会福祉協議会との意見交換会を1回実施した。初めて成年後見、研修等の意見交換をした。

6) 自立支援協議会 マネジメント業務

・全体会3回/事務局会議7回

・相談支援部会3回/事務局会議3回

・就労支援部会3回/事務局会議3回

・精神保健福祉部会3回/事務局会議5回

・相談支援事業所連絡会12回

・障害児通所支援事業所連絡会2回/事務局会議2回

・地域移行等支援連絡会10回/打合せ他7回

・防災情報まとめサイト管理

・ニューズレター発行2回/打合せ、取材他25回

第13号は、地域活動支援センターを特集。第14号は、ショートステイ・ミドルステイを特集。QRコードを掲載し、写真と共に動画も見られるようにした。

7) 市との定例協議・その他連絡会等

・市－基幹定例協議12回。定例協議は職員全員参加した。

・医療的ケア児支援関係者会議3回、事務局会議4回。センター長が副会長として出席し、事務局として主任が参加した。

・地域ケア会議権利擁護部会（定期年2回）。高齢福祉課からの依頼で委員として参加した。

- ・消費者見守りネットワーク（定期年3回）。経済課の依頼で参加したが、内2回は地域ケア会議と同日開催された。
- ・権利擁護関係機関連絡会（定期年2回）。センター長と職員の2名で参加した。
- ・障害者/高齢者実務従事者虐待防止ネットワーク2回。障害福祉課と高齢福祉課からセンター長に依頼があり参加した。
- ・相談支援体制検討プロジェクトチーム2回。打合せは市と基幹で行い、4法人・市・基幹で検討を開始した。
- ・協働型機能強化相談支援体制プロジェクトチーム1回。参加希望事業所を確認し、スタートアップ会議を開催した。
- ・基幹相談支援センター連絡会（定期年3回）。オンラインで開催し、ホストは持ち回りで行った。

8) 緊急度の高いケースの把握

- ・相談支援専門員の依頼により、市と基幹が訪問に同行し、緊急入所保護事業の説明を行うが、令和5年度は依頼がなかったため、緊急把握の情報確認のみを市で行った。
- ・令和5年度の緊急入所保護事業は、殆どの相談が日中に入っていたため、基幹として支援に関わることはなかった。
- ・緊急携帯は、センター長、主任、職員1名で持ち、夜間、休日に対応した。

3. 職員育成・課長面談の実施結果の状況

1) 業務の質の変化と効率化

- ・令和5年度より、文字起こしサービスで議事録作成をサポートし、会議やセミナーを「文字起こし+録音+画面キャプチャ」で記録するtoruno（トルノ）の活用を開始した。試験的運用を経て導入し、今後のデータ処理のスピードアップを図っている。
- ・業務で作成する記録について、PC上で決裁するものと、起案等、法人に書面で提出する必要があるもの2通りの処理フローを作成し、効率化を図った。
- ・相談支援従事者初任者研修にて市内の相談支援体制の説明動画（15分）を作成した。受講者8人に視聴学習を求め、研修の効率化を図った。

2) 職員の相談支援のスキルアップ・専門性の獲得とネットワーク作り

- ・研修、連絡会等への参加回数

研修40回、コンサルテーション6回、講演会24回、連絡会6回、説明会8回、情報交換会2回
その他（講師）6回の計92回で平均一人当たり18回の学びの機会を作り、情報共有した。

- ・ヒヤリハット報告数の目標を営業日数とし、2月以外達成した。報告書を作成する中で、コロナウイルスが5類になったことやメディアリテラシー等の問題などを受け、行動指針の内容を変更または加筆する必要性を検討し、部門会議に提案した。部門会議で検討され、10月に改訂版が職員間に周知された。

3) 実践研究・実践報告事業の準備

- ・令和6年度の発表に向けて、法人内に基幹の業務や役割の理解を進めるためのテーマを検討した。
- ・自立支援協議会の年間テーマが「地域生活支援拠点の更なる充実と強化」であることから、自立支援協議会の運営に深く関わっている基幹の役割を法人職員に周知する内容を案とした。

4. 活動実績

令和5年度 相談業務実績（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

相談支援件数	3,510 件
--------	---------

【個別ケースに関わる相談業務】

支援方法別件数

	訪 問	来所相談	同 行	電話等 相談	電子 メール	個別支援 会議	その他	計
件数	165	117	9	1,061	53	16	2	1,423

支援内容の内訳

	福祉サービ スの利用等 に関する 支援	障害や症状 の理解に関 する支援	健康・医療 に関する 支援	不安の解 消・情緒安 定に関する 支援	保育・教育 に関する 支援	家族関係・ 人間関係に 関する支援	家計・経済 に関する 支援	生活技術に 関する支援
件数	926	301	295	187	21	380	132	404

	就労に関す る支援	社会参加・ 余暇活動に 関する支援	権利擁護に 関する支援	虐待防止に 関する支援	地域移行・ 地域定着に 関する支援	その他	計
件数	63	58	68	23	59	118	3,035

【地域のネットワーク体制の構築及び研修等に関わる業務】

支援方法別件数

	訪 問	来所相談	電話等 相談	電子メール	その他	計
件数	165	206	829	884	3	2,087

【月別対応件数】

	個別相談件数	対応ケース数	その内の 新規ケース数	個別相談以外
4月	124	45	10	138
5月	144	37	7	136
6月	120	31	9	251
7月	141	40	12	206
8月	156	30	9	190
9月	118	36	9	184
10月	99	35	12	192
11月	144	51	8	212
12月	95	34	9	171
1月	62	26	8	149
2月	65	40	8	129
3月	155	30	7	129
合計	1,423	207（実数）	108	2,087

⑤地域の相談支援事業者の研修等

日付	テーマ及び内容	対象	備考
5月18日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：相談支援向け提供サービスの説明 講師：（社福）宝もの 教室事業部・進路担当 国府 由香利 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：14名
6月15日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：フードドライブ説明 講師：国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 野村 拓夢 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：10名
7月14日	【ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）】 テーマ：「地域移行 in 国分寺 ～地域支援機関と精神科病院との連携～」 講師：根岸病院 社会復帰療養病棟 看護師長 榎林 康子氏 松沢病院 患者地域サポートセンター 患者家族支援係入退院支援担当 主任 笠原 朋 氏 会場：リオンホール AB	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害福祉サービス通所 支援事業所 ・地域包括支援センター ・行政 ・精神科病院 ・精神科クリニック ・訪問看護ステーション	参加者 ：64名
7月21日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：消費生活相談について 講師：経済課 消費生活相談室 相談員 内山 みゆき 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：12名

8月17日	【新任研修】 テーマ：①計画相談支援、障害児相談支援における報酬の請求、書類提出について ②提出が必要なサービス等利用計画等の様式一覧について 講師：障害福祉課事業推進係 係長 千田 孝一 氏 障害福祉課事業推進係 市村 智美 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室 【ブラッシュアップ研修】 テーマ：「相談支援事業の黒字経営について ～障がい者の権利擁護を保障するために～」 講師：社会福祉法人ソラティオ 理事長 岡部 正文 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者：12名
9月21日	【事例勉強会】 テーマ：権利擁護センターの概要と相談支援専門員との連携事例 講師：権利擁護センター 主任 泉 有紀 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者：11名
11月16日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：「相談支援事業所 機能強化協働 ～宮代町・杉戸町における取り組み～」 講師：埼玉北障がい者生活支援センター ふれんだむ 練生川 勇 氏 相談支援事業所ひまわり 河野 明日香 氏 特定相談支援事業所庄内 小島 修 氏 MUT 株式会社 ROAD 柏倉 瞳 氏 会場：KOCO・ジャム2階多目的室+オンライン	・相談支援事業所	参加者：12名
11月24日	【ネットワーク研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉）】 テーマ：「8050 世帯への支援 ～世帯を支えるために それぞれができること～」 講師：なでしこメンタルクリニック 院長 白石 弘巳 氏 会場：リオンホール AB	・相談支援事業所 ・共同生活援助事業所 ・障害者通所事業所 ・地域包括支援センター ・居宅介護支援事業所 ・デイサービス事業所 ・社会福祉協議会 ・行政	参加者：43名
12月7日	【支援者向け虐待防止研修】 テーマ：「くいつもと違う」という変化の気づきが鍵 ～幼児から10代のアセスメントが 高齢期を幸せにする？！～」 講師：武蔵野大学 教授 木下 大生 氏 会場：リオンホール AB+オンライン	・市内の全福祉事業所 ・学校、学童 ・保育所、幼稚園 ・社会福祉協議会 ・行政	参加者：114名 【内訳】 会場：72名、オンライン
12月21日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：相談を受けるといこと ～ネガティブケイパビリティ～ 講師：ベル相談室 臨床心理士・公認心理師 角田 みすゞ 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者：8名
2月1日	【ネットワーク研修Ⅲ（障害児）】 テーマ：「障害のある子どものいる世帯を支える」 ～家族への支援の必要性を理解する～」 講師：明星大学 教授 吉川 かおり 氏 会場：リオンホール AB	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害児通所事業所 ・学童保育所 ・障害福祉サービス事業所 ・行政	参加者：43名

2 月 15 日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：根岸病院との連携 講 師：根岸病院 常務理事 松村 洋明 氏 会 場：根岸病院地下1階 根岸ホール	・相談支援事業所 ・根岸病院看護師 ・根岸病院 OT ・根岸病院 PSW	参加者 ：35名
3 月 21 日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：医療的ケア児の支援について 講 師：つくしんぼ相談支援専門員 馬上 弘子氏 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：13名

⑥権利擁護等に関わる研修及び会議への出席

月	日	研 修 名	主 催	参加人数
5	30	法人虐待防止管理者研修	社会福祉法人万葉の里	1名
6	15	地域ケア会議 権利擁護部会	高齢福祉課	2名
6	29	法人虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	6名
7	20	障害者・高齢者虐待の概念の理解	東京都多摩総合精神保健福祉センター	1名
10	17	「親なきあと」コラボ勉強会	UNIBEST、ソニー生命	2名
11	22	成年後見制度講演会	社会福祉協議会、NPO 法人 ウィル	1名
11	24	法人虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	5名
1	21	法律ができたらどうする？	東京都高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会	2名
1	24	働くことが難しい子どものライフプラン	NPO 法人ウィル	1名
2	29	法人虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	4名

V 法人全体の取組

1. 職員研修

新たな知識、情報、新たな視点等を獲得できるよう、法人内外の研修を活用した。事業によって、研修の参加しやすさ、しにくさはどうしても発生してしまう為、職員会議を活用して5名の職員に研修報告を実施した。研修内容の共有とともに、発表者は限られた時間の中で他者に説明する機会としても活用した。また、各事業においても外部の講師を活用し、支援の振り返り、事例検討等の機会を定期的に設けた。

2. 利用者の声を聴く取組

指定管理事業として運営しているセンターでは、通所事業において「第三者評価」その他の事業については「利用者アンケート」を実施した。満足度の結果は以下の内容である。

		回答者数	大変満足 (はい)		満足 (どちらかといえばはい)		満足計	
		人	%	人	%	人	%	人
第 三 者 評 価	生活介護	23	47.8	11	26.1	6	73.9	17
	自立訓練	10	60	6	20	2	80	8
	就労B型	11	54.5	6	27.3	3	81.8	9
利 用 者 ア ン ケ ー ト	短期・日中	33	69.7	23	18.2	6	87.9	29
	計画相談	115	58.3	67	28.7	33	87	100
	地域活動 支援 センター	21	71.4	15	14.3	3	85.7	18
	計	213	60.1	128	24.9	53	85	181

第三者評価、利用者アンケートそれぞれ、約77%、約87%、法人全体としては、約85%との結果であった。第三者評価、利用者アンケートは、一つの指標だが、今後も利用者の声を反映する取組を行い、利用者の方により満足いただけるよう努めていきたい。

3. 広報活動・地域交流

法人広報誌「ことのは」、各事業にて発行している通信を定期的に発行した。発行したものは、HPにも掲載し法人の活動を発信する機会として活用した。また、日頃の活動をアピールすること、利用者もホストとなり、お客様を迎えることを目的として「万葉の里 オープンデー」を10月8に開催した。

①定期刊行物 「広報万葉の里」の発行

NO	発行時期	主 な 内 容
No75	2023 年 10 月 秋号	「特集 継続は力なり～実践研究・実践報告会の取組～」 万葉コレクション（事業紹介）「就労継続支援事業B型どーむ」 lets「生活介護事業太陽創作活動・地域活動支援センターつばさアートサロン講師」 ういず「職員リレー紹介」・いやしけよごと・編集後記
N076	2024 年 4 月 春号（発行予定）	「特集 万葉の里 オープンディ～輝ける場・出会いの場～」 万葉コレクション（事業紹介）「共同生活支援事業所 万葉のっり ケアホームひかり」 lets「訪問看護ステーションナーシングウィン 看護師・作業療法士インタビュー」 ういず「職員リレー紹介」・いやしけよごと・編集後記

②各事業で企画や予定をお知らせするため定期的に便りを発行した。

名称	発行回数	配布先
太陽だより	月 1 回 12 回発行	生活介護事業太陽利用者/利用者ご家族
つばさだより	月 1 回 12 回発行	地域活動支援センター利用者
この里だより	月 1 回 12 回発行	生活介護事業この里利用者/利用者ご家族

4 会議の開催

(1) 内部会議 下表のとおり、それぞれの役割・職域に応じた会議を開催した。また、各事業のスタッフ会議を定期的実施した。

会議名	開催日時	参加者	議案・内容
執行理事会	毎月第1木曜日 12 回開催	理事長・副理事長・常務理事 執行理事	法人の運営方針、目標管理等について協議した。定例会以外に必要な応じて開催した。
経営会議	毎月第4木曜日 12 回開催	理事長・副理事長・常務理事 管理者・センター長	各拠点からの報告、予算執行状況について情報を共有した。また、改善を要する案件については、意見交換を行い、改善策が見出させるよう取り組んだ。
部門会議	毎月1火曜日 12 回開催	各部門長・センター長	「万葉の里で働くあなたへ」の改訂、感染症対策等、法人全体に関わる内容について協議した。
課長会議	毎月3火曜日 12 回開催	各課長	各課に共通する案件、利用者支援等について、検討を行うと共に情報共有を行った。
職員会議	毎月4水曜日 12 回開催	法人職員全員	法人の事業について報告し情報共有する場として実施した。
衛生委員会	毎月第3金曜日 12 回開催	産業医・管理者・衛生管理者 職員の代表1名	毎月テーマを決め、その内容に基づく情報共有検討を行い、職員会議を通して情報共有を図った。支援の現場が3拠点に分かれており、それぞれの衛生面、労働環境面からのパトロールを実施した。
虐待防止委員会	毎月第1火曜日 10 回開催	各部門長・センター長	職員への啓発活動として実施する虐待防止研修の内容について協議した。
身体拘束検討委員会	毎月第3火曜日 5 回開催	各課長・看護主任	身体拘束に関わること、職員への啓発活動について協議した。
給食会議	毎月第2金曜日 12 回開催	管理者・主任看護師・給食業者・各事業担当	給食について情報共有、検討を要する事柄について検討を行った。
広報委員会	毎月第4水曜日 12 回開催	総務課担当者・各部門担当者	年2回発行する広報誌について、掲載する原稿、写真と時間をかけ精査し発信したい内容が届くよう取り組んだ。

送迎会議	毎月第2火曜日 12回開催	送迎担当・送迎事業者	送迎について情報共有を行い、課題を共有、検討を行った。
------	---------------	------------	-----------------------------

(2)関係機関との連絡会

種別	開催日時	参加者	議案・内容
国分寺市との連絡会	令和5年7月6日 令和6年3月6日	国分寺市障害福祉課 6人 社会福祉法人万葉の里 5人 国分寺市障害福祉課 6人 社会福祉法人万葉の里 3人	国分寺市障害者センター運営報告と課題の説明、共有を行った。

5. ボランティア・実習生の受け入れ

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、比較的外部の方を活動に迎えやすくなった。生活介護事業太陽・この里では、共にボランティアの方を講師として余暇活動に取り組んだ。また、社会福祉士取得を目的とした実習、養護教諭を目指す方9名受け入れた。その他、市内公立中学校、私立中学校より生徒を9名受け入れた。大学生による実習生とは異なり、利用者の方と緊張しつつ交流する生徒の姿は新鮮であった。外部の方と交流することは、利用者にとっても良い機会であり、今後も積極的に受け入れたい。

6. 安全管理・防災訓練

(1)防災訓練の実施：国分寺市障害者センターは火災、KOCO・ジャムは地震をそれぞれ想定しての避難訓練を実施した。

【国分寺市障害者センター】

	第1回	第2回
日時	令和5年5月23日 10～11	令和6年3月22日 10～11
参加者	利用者・職員 81人	利用者・職員・ボランティア 78人

【KOCO・ジャム】

	KOCO・ジャム	ケアホームこの葉	ケアホームひかり
日時	9月19日 14:00～14:50	9月19日 19:00～19:15	9月20日 18:25～18:35
参加者	利用者・職員 22人	利用者・職員 21人	利用者・職員 14人

VI 理事会・評議員会

I 理事会

	日時	主な議案・報告
第1回	令和5年 5月25日	議案①令和4年度事業報告の承認について ②令和4年度計算書類及び財産目録の承認について ③社会福祉法人万葉の里 評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規定の一部改正について ④第12期理事・監事候補者について ⑤令和5年度定時評議員会の招集について 報告①理事長・執行理事の業務執行状況報告について
第2回	令和5年 6月15日	議案①社会福祉法人万葉の里 理事長の選任について ②社会福祉法人万葉の里 副理事長の選任について ③社会福祉法人万葉の里 業務執行理事の選任について ④令和5年度役員賠償責任保険加入について
第3回	令和5年 11月22日	議案①社会福祉法人万葉の里 評議員選任、解任委員会委員候補者について（補選） ②社会福祉法人万葉の里 国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長の任免について ③社会福祉法人万葉の里 KOCO・ジャム管理者の任免について ④令和5年度補正予算（案）について 報告①令和5年度上半期事業報告について ②理事長・執行理事の業務執行状況報告について
第4回	令和6年 1月31日	議案①社会福祉法人万葉の里 定款細則の改訂について ②社会福祉法人万葉の里 経理規程の改訂について ③指定管理事業、委託事業に係る消費税の課税について ④国分寺市障害者センター管理業務委託契約について
第5回	令和6年 3月28日	議案①社会福祉法人万葉の里 給与規程の一部改正について ②社会福祉法人万葉の里 組織規程の一部改正について ③社会福祉法人万葉の里 令和5年度補正予算（案）について ④社会福祉法人万葉の里 令和6年度事業計画（案）について ⑤社会福祉法人万葉の里 令和6年度予算（案）について ⑥「就労事業積立金」の名称変更について ⑦令和6年度役員賠償責任保険の加入について

2 評議員会

	日時	主な議案・報告
第1回 定時	令和5年 6月14日	議案 ①令和4年度計算書類及び財産目録の承認について ②社会福祉法人万葉の里 評議員及び役員の報酬等及び費用弁償に関する規定の一部改正について ③第12期理事・監事候補者について 報告 ①令和4年度事業報告について

月	生活介護事業				自立訓練・機能訓練				自立訓練・生活訓練				就労継続支援B型						合計		
	太陽(定員:1日当り38人)				機能訓練はばたき(定員:1日当り6人)				生活訓練はばたき(定員:1日当り6人)				どーむ(定員1日当たり10人)						契約 人数	延利用 日数	平均利用 者数
	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用 者数	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用 者数	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用 者数	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用 者数	契約 人数	開所 日数			
令和5年4月	48	20	752	37.6	3	4	9	2.3	4	16	35	2.2	18	24	157	6.5	73	953	48.6		
令和5年5月	48	20	743	37.2	4	5	17	3.4	5	15	45	3.0	18	24	158	6.6	75	963	50.1		
令和5年6月	48	22	812	36.9	5	4	19	4.8	6	18	80	4.4	18	26	178	6.8	77	1,089	52.9		
令和5年7月	48	20	746	37.3	4	4	14	3.5	6	16	65	4.1	18	25	153	6.1	76	978	51.0		
令和5年8月	47	22	745	33.9	4	5	18	3.6	6	17	76	4.5	17	26	155	6.0	74	994	47.9		
令和5年9月	46	20	679	34.0	4	4	13	3.3	6	16	68	4.3	17	24	150	6.3	73	910	47.7		
令和5年10月	47	22	780	35.5	4	5	20	4.0	6	17	77	4.5	16	26	180	6.9	73	1,057	50.9		
令和5年11月	47	20	709	35.5	4	4	15	3.8	6	16	68	4.3	16	25	165	6.6	73	957	50.1		
令和5年12月	47	20	702	35.1	4	4	15	3.8	6	16	70	4.4	16	25	170	6.8	73	957	50.0		
令和6年1月	47	19	658	34.6	4	4	15	3.8	6	15	66	4.4	16	23	140	6.1	73	879	48.9		
令和6年2月	48	19	676	35.6	3	4	11	2.8	6	15	67	4.5	15	23	133	5.8	72	887	48.6		
令和6年3月	48	20	716	35.8	3	4	12	3.0	5	17	67	3.9	15	25	159	6.4	71	954	49.1		
合計	569	244	8,718	428.8	46	51	178	41.75	68	194	784	48.38	200	296	1,898	76.9	883	11,578	595.8		
平均	47.4	20.3	726.5	35.7	3.8	4.3	14.8	3.5	5.7	16.2	65.3	4.0	16.7	24.7	158.2	6.4	73.6	964.8	49.6		
令和4年度合計	562	243	8,522	421.6	30	96	201	25.3	51	147	530	43.7	215	293	2,010	82.3	858	11,263	572.9		
令和4年度平均	46.8	20.3	710.2	35.1	2.5	8.0	16.75	2.10833	4.3	12.3	44.2	3.64167	17.9	24.4	167.5	6.9	71.5	938.6	47.7		

月	短期入所			日中一時支援			相談支援事業				
	開所 日数	短期入 所日数	1日 平均	延利用 日数	1日 平均	時間 合計	相談			ケース 管理 時間 平均	
							開所 日数	件数	新規 (増減)		1日 平均
令和5年4月	30	26	0.9	49	1.6	222	26	936	8	36.0	71
令和5年5月	31	32	1.0	40	1.3	155	26	851	4	32.7	80
令和5年6月	30	35	1.2	34	1.1	135	28	983	9	35.1	75
令和5年7月	31	36	1.2	50	1.6	218	27	865	4	30.8	63
令和5年8月	31	22	0.7	55	1.8	236	28	923	6	32.9	78
令和5年9月	30	33	1.1	38	1.3	155	26	833	8	32.0	61
令和5年10月	31	29	0.9	50	1.6	206	27	900	7	33.3	91
令和5年11月	30	32	1.1	51	1.7	212	26	782	8	30.1	64
令和5年12月	31	26	0.8	41	1.3	188	26	862	4	33.2	62
令和6年1月	31	29	0.9	39	1.3	160	25	857	5	34.3	73
令和6年2月	29	30	1.0	40	1.4	163	25	781	10	31.2	73
令和6年3月	31	35	1.1	51	1.6	231	27	798	10	29.6	72
合計	366.0	365.0	12.0	538.0	17.6	2281.0	317.0	10371	83.0	391.2	863
平均	30.5	30.4	1.0	44.8	1.5	190.1	26.4	864	6.9	32.6	72
令和4年度合計	365.0	283.0	9.4	517.0	17.1	1966.0	316.0	10834	84.0	413.1	870
令和4年度平均	30.4	23.6	0.8	43.1	1.4	163.8	26.3	903	7.0	34.4	73

令和5年度KOCO・ジャム 利用状況一覧

月	短期入所			基幹相談支援事業				生活介護事業				居宅介護事業				ケアホームひかり				ケアホームこの葉			
	開所 日数	延利用 日数	1日 平均	開所 日数	件数	新規	1日平均	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	1日 平均	派遣 時間	利用 者数	稼働 ヘルパー	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均	
令和5年4月	30	12	0.4	24	262	10	10.9	17	20	308	15.4	635.00	67	23	30	12	330	11.0	30	13	322	10.7	
令和5年5月	31	12	0.4	24	280	7	11.7	17	20	300	15.0	683.50	64	22	31	12	318	10.3	31	14	334	10.8	
令和5年6月	30	12	0.4	26	371	9	14.3	17	22	344	15.6	679.00	67	23	30	12	334	11.1	30	14	347	11.6	
令和5年7月	31	14	0.5	25	347	12	13.9	17	20	308	15.4	712.00	72	20	31	12	325	10.5	31	14	343	11.1	
令和5年8月	31	17	0.5	26	346	9	13.3	17	22	324	14.7	631.25	64	19	31	12	324	10.5	31	14	347	11.2	
令和5年9月	30	15	0.5	24	302	9	12.6	17	20	293	14.7	712.00	67	20	30	12	318	10.6	30	14	331	11.0	
令和5年10月	31	16	0.5	25	291	12	11.6	17	23	304	13.2	704.25	63	21	31	12	338	10.9	31	15	374	12.1	
令和5年11月	30	16	0.5	24	356	8	14.8	17	21	305	14.5	720.50	67	24	30	12	321	10.7	30	15	351	11.7	
令和5年12月	31	17	0.5	24	266	9	11.1	17	20	304	15.2	689.00	64	20	31	12	329	10.6	31	15	365	11.8	
令和6年1月	31	17	0.5	23	211	8	9.2	17	19	268	14.1	656.00	66	22	31	12	311	10.0	31	15	338	10.9	
令和6年2月	29	18	0.6	23	194	8	8.4	17	19	245	12.9	607.50	63	21	29	12	305	10.5	29	15	345	11.9	
令和6年3月	31	16	0.5	25	284	7	8.4	18	21	292	13.9	636.75	70	24	31	12	341	11.0	31	15	366	11.8	
合計	366	182	6.0	293	3510	108	140.2	205	247	3595	174.7	8,066.75	794.0	259.0	366	144	3894	127.7	366	173	4163	136.5	
平均	30.5	15.2	0.5	24.4	292.5	9.0	11.7	17.1	20.6	299.6	14.6	672.2	66.2	21.6	30.5	12.0	324.5	10.6	30.5	14.4	346.9	11.4	
令和4年度合計	365			293	3916	108	160.0	185	244	3282	5.0	6,871.8	675.0	255.0	365	144	3870	127.3	365	175	4018	132.3	
令和4年度平均	30.4			24.4	326.3	9.0	13.3	15.4	20.3	273.5	13.5	572.6	56.3	21.3	30.4	12.0	322.5	10.6	30.4	14.6	334.8	11.0	

